

目 次

はじめに	2
I 博物館概要	
○設置目的	3
○基本的性格と方針	3
○沿革	4
○施設・設備	5
II 平成7年度 組織・運営	
○組織	7
○事業計画	7
III 平成6年度のあゆみ	
○職員	9
○日誌抄	10
○博物館協議会	10
○実施事業の概要	11
○刀剣展示・スタディコーナーの概要	
1 刀剣コーナー	12
2 スタディコーナー	12
○特別展	
1 「川に生きる」 ～水運と漁労～	13
2 「美濃山地の自然」	14
○資料紹介展	
自然界のふしぎ発見	15
○特別陳列	
ふるさとの文化財紹介展	16
○調査研究・資料収集活動	
自然部門	17
人文部門	20
○教育普及活動	21
○マイ・ミュージアム	24
○図書資料寄贈者芳名一覧	26
○利用状況	30
○博物館関係団体	30
IV 利用案内	

はじめに

平成6年1月に着工された岐阜県博物館の新館「マイ・ミュージアム」は、平成7年3月に竣工しました。高さ25mの建物は、ポーチに円柱が立ち、2階以上は正面がガラス張り、シースルーのエレベーターも設置され、ハイビジョンホール、マルチメディアスタジオには、最新の機器を導入し、県民の収集品を展示するギャラリーの設備も完備しています。この新館は4月から博物館の正面玄関として入館者を迎え、7月には、各階とも運用を開始する予定です。当館が誕生して20年目の本年は、県博物館新時代の幕開けになります。

平成6年度は、幕開けに備え、新旧両館の備品整備及び更新、ハイビジョンソフト「ハイパーハイビジョン風土記」の制作、県民収集品展示計画の作成と企画運営委員会の設置等を行いました。また、通商産業省の補助事業として全国6箇所に設置されたマルチメディア情報センターの一つであり、県のマルチメディア工房として最初に機能するための先端情報機器の設置を具体化しました。

1年間、新館建設工事のため、来館者には、仮設通路・階段、自然展示室の一時閉鎖等不便をかけたりましたが、特別展をはじめ諸催しは、順調に実施できました。年2回の特別展とこの年からシリーズで開催する「ふるさとの文化財紹介展」は、人文展示室を利用して規模と展示の充実を図り、普及事業も内容を整理するとともに回数を増やすなどの改善をしました。広報活動の強化にも努め、マスメディアの積極的活用やポスター等配布文書の工夫等を行いました。

調査・研究は第3次恐竜化石調査団により荘川村地内で手取層地層の掘削を行い、また、上宝村で20数年まえに採取されたと思われる球形の化石が恐竜卵であることを明らかにし、反響を呼びました。

ユタ州の大学付属博物館との交流、ポリビア三葉虫化石の寄贈など国際化にも一歩踏み出しており、7年度には、ユタ州の恐竜化石とポリビアの三葉虫化石をそれぞれ「資料紹介展」として展示します。特別展の「岐阜の淡水魚」と「美濃・飛騨の古代史発掘」に特別陳列「ふるさとの文化財紹介展ー岐阜地区ー」、そして岐阜県と名古屋市が共催する「入定300年記念 円空展」の会場にもなり、マイミュージアムギャラリーの展示と合わせて、県民の皆様には何度も博物館へ足を運んでいただけるのではと期待しています。

普及活動も親子対象の「たのしい博物館」と一般向けの「博物館講座」の二本立てとしシリーズ化も図るなどして、生涯学習社会に対応するよう企画しています。

本年度は、「マイ・ミュージアム」の開館にともなう県博物館新時代の初年度として、県民の皆様の期待に応えるべく従来にも増して博物館経営の充実に努める覚悟です。本館報18号を御高覧いただき、御支援、御指導を賜わりますようお願いいたします。

平成7年4月1日

岐阜県博物館長 清水 廣 美

I 博 物 館 概 要

〔設置目的〕

岐阜県の人文、自然両分野にわたる諸資料を公開し、併せて、教育普及活動を行うことにより広く県民の学習の場となり、また文化財保護の精神の涵養に役立て、新しい教養と文化の発展に寄与することを目的とする。

〔基本的性格と方針〕

1 基本的性格

岐阜県の人文（考古、歴史、民俗、美術工芸）・自然（動物、植物、地学）等に関する諸資料の収集、保管、展示、調査研究およびそれらの活用を図る総合博物館とする。

学校教育・社会教育との密接な連携を図り、利用者が楽しく学習することができ、未来への研究心と創造性を開発させるような生涯学習機関とする。

「ハイパーハイビジョン風土記」を主とした博物館情報を創設し、マルチメディアシステムによる情報の収集、加工、発信、受信を行い、情報化社会に対応した魅力ある博物館を目指す。

県内外の博物館および相当施設との活発な交流を図るとともに、本県の中央博物館としての役割を果たす内容と設備を有する施設とする。

資料の収集および保存並びに活用について、専門的な調査研究を推進する。

2 基本方針

(1) 資料収集

県内の歴史・考古・民俗・美術工芸・自然等に関する資料を収集する。

資料は、実物を中心とするが、必要に応じて厳密な考証に基づく復元模型を含める。

寄贈、寄託、借用、購入等により収集する。

(2) 展示構成

展示は、常設展示と特別展示とする。

常設展示は、総合展示と課題展示とし、それぞれ人文、自然の2部門に分ける。総合展示は、だれにも親しめるよう平易な展示を心掛け、本県の歴史の発展の概要と、自然環境の概要を理解しやすく展示する。課題展示は、内容において、前者よりやや高度なものとする。

特別展示は、特定の企画とテーマを設けて、展示をする。

展示の方法は、(ア)生涯学習の場として、幅広い層に親しめる展示 (イ)資料の単なる羅列ではなくストーリー性のある展示 (ウ)総花的展示を避け、各時代の特色やテーマの本質をとらえた展示 (エ)できる限り実物資料の展示をするが、更に、図表、模型等多種類の資料も活用 (オ)

視聴覚機器などを取り入れ、見る人に強く訴える設備(カ)明確で分かりやすい解説とする。

展示室の主題と内容は次のとおりである。

- 人文展示室1（人文総合展示）
主題「郷土のあゆみ」一原始時代から近代、現代に至るまでの歴史の流れと、各時代の特色を分かりやすく展示する。
- 人文展示室2（人文課題展示）
主題「郷土の美術工芸」一特色ある郷土の美術工芸を部門別、時代別に展示する。
- 自然展示室1（自然総合展示）
主題「郷土の自然とおいたち」一郷土の自然の概要を生態的に分かりやすく展示する。
- 自然展示室2（自然課題展示）
主題「郷土のさまざまな自然」一特色ある自然物や事象をテーマ別に系統的に展示する。
- 特別展示室（特別展示）
特定の企画とテーマを設けて年に数回展示する。

(3) 情報化社会への対応

- ハイビジョンホール
「ハイパーハイビジョン風土記」を中心としたハイビジョン番組の放映および講演会、研修会等に活用する。
- マルチメディアスタジオ
個人が個別の目的に沿って、「ハイパーハイビジョン風土記」の情報を自在に検索する。
将来的には、通信機器およびサーバを導入し、マルチメディア機能を向上させ、県内外のネットワーク化を図り情報の収集、発信に努める。
- 制作室

マルチメディア工房として、一般県民のソフトの制作、編集、および研修室としての機能の整備を図る。

(4) マイミュージアムギャラリー

主として、県民の個人・法人等の所蔵するさまざまな種類のコレクションを、広く公開するための展示スペースとして利用する。また、県民の生涯学習の成果を発表できる場所として、実技・実演も実施できるような施設とする。

〔沿革〕

岐阜県博物館は、置県百年記念事業の1つとして、昭和51年5月5日、アカマツなどの自然林の生える里山の中に開館した。

県内各地の豊かな資料をもとに、常設展示を人文展示室1・2、自然展示室1・2に分け、郷土岐阜県を紹介した総合博物館である。

また、特別展を年に数回開催している。

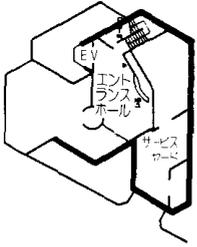
博物館建設準備段階からの沿革は次のとおりである。

昭和46年3月	岐阜県百年記念事業推進委員会において、博物館の建設を決定	昭和58年4月	特別展「岐阜県の考古遺物」	きる博物館の在り方について」
4月	教育委員会社会教育課に博物館準備担当を配置	5月	入館者80万人を突破	諮問
6～9月	博物館懇談会を設ける	7月	特別展「長良川」	入館者130万人を突破
昭和47年4月	博物館開設準備室を設置 展示委員会を設ける	10月	特別展「郷土の生んだ先覚者」	10月
昭和48年8月	起工式挙行政	昭和59年4月	特別展「濃飛の戦国武将」	12月
昭和49年3月	展示実施計画樹立	7月	特別展「ふるさとの昆虫」	岐阜県博物館協議会から中間 答申
10月	定礎式	8月	入館者90万人を突破	平成3年3月
昭和50年3月	展示工事着手	10月	学習ビデオスタディコーナー 設置	岐阜県博物館案内標識を設置
7月	本館建築竣工	特別展「濃飛の蘭学」	平成3年3月	4月
昭和51年1月	展示工事完了	特別展「濃飛の縄文時代」	7月	特別展「ふるさとの哺乳動物」
4月	岐阜県博物館条例公布 岐阜県博物館設置 展示資料等製作完了	7月	特別展「鉱物の世界」	10月
5月	開館記念式典挙行政 一般公開	10月	特別展「美濃の刀剣」	置県120年・岐阜県見島姉妹県 盟
7月	皇太子 同妃殿下行啓	12月	入館者100万人を突破	約20周年記念展「鹿見島一 の自然と歴史」
8月	特別展「ふるさとの文楽」	昭和61年4月	自然展示室2を改装	11月
入館者10万人を突破	昭和62年4月	7月	特別展「徳山の四季とくらし」	平成4年3月
10月	入館料徴収開始	9月	特別展「奥飛騨の自然」	岐阜県博物館協議会より「新 しい時代・県民ニーズに対応 する博物館の在り方について」 答申
11月	特別展「熊谷守一展」	10月	人文展示室1を改装	4月
昭和52年5月	特別展「日本伝統工芸秀作展」	10月	開館10周年記念式典を挙行政 開館10周年記念展「ふるさと の祭り」	特別展「飛騨のあけぼの - 交 流する縄文・古代人 -」
入館者20万人突破	昭和63年1月	7月	特別展「濃飛の弥生時代」	7月
7月	特別展「郷土の化石展」	10月	入館者110万人を突破	特別展恐竜王国「恐竜 - 謎と ロマン -」
11月	特別展「鉄斎」	7月	特別展「外国から侵入した生 きものたち」	10月
昭和53年4月	入館者30万人を突破	10月	特別展「飛騨の匠」	平成5年3月
特別展「濃飛の甲冑」	4月	特別展「飛騨の匠」	4月	入館者150万人を突破
7月	特別展「世界のコガネムシ」	特別展示室ショーケース改修	8月	特別展「土と炎の芸術」
10月	特別展「能面と装束」	特別展「ふるさとの湿原」	8月	入館者1千人にアンケート実 施
昭和54年4月	入館者40万人突破	7月	中部未来博88記念展「中山道 一美濃十六宿一」	9月
特別展「濃飛の先史時代」	10月	10月	特別展「中生代の化石」	29日大型は乳類足跡化石を美 濃加茂市で発掘
7月	特別展「世界の貝」	平成元年4月	入館者120万人を突破	10月
10月	特別展「濃飛の文人」	特別展「濃飛の古墳時代」	平成5年3月	特別展「失われゆく植物」
11月	「視覚障害者(触察)コーナー」 開設	7月	特別展「濃飛の古墳時代」	11月
昭和55年4月	特別展「宝暦治水と薩摩藩」	8月	特別展「ふるさとの野鳥」	「ハイパーハイビジョン風土 記」イメージシュミレーショ ンソフトの完成
5月	入館者50万人を突破	10月	16日恐竜足跡化石白川村で発 見	平成6年1月
7月	特別展「化石の世界」	11月	特別展「移ろいゆく年中行事」	20日マイ・ミュージアム棟起 工式
10月	特別展「糞虫山人」	日本生命財団から図書「岐阜 県博物館総合案内」4,000冊の 寄贈を受ける	8月	大型は乳類足跡化石を展示
昭和56年4月	特別展「美濃の絵馬」	平成2年4月	特別展「輪中と治水」	4月
5月	入館者60万人を突破	7月	特別展「白山の自然」	特別展「川に生きる 水運と 漁労一」
7月	特別展「御岳山は生きている」	「恐竜足跡化石レプリカ」除 幕式	8月	恐竜の歯等北川村で発見
10月	特別展「ふるさとの美濃古陶」	グリーンアドベンチャー標識 設置(「自然観察のこみち」に) 岐阜県博物館協議会に「新し い時代・県民ニーズに対応で	9月	特別展「美濃山地の自然」
昭和57年4月	特別展「高賀山の信仰」	平成7年3月	グリーンアドベンチャー標識 設置(「自然観察のこみち」に) 岐阜県博物館協議会に「新し い時代・県民ニーズに対応で	10月
入館者70万人突破	7月	平成7年3月	グリーンアドベンチャー標識 設置(「自然観察のこみち」に) 岐阜県博物館協議会に「新し い時代・県民ニーズに対応で	12月
7月	特別展「ふるさとの植物」	完成	完成	ユタ州訪問(花フェスタ'95展 示化石の借用、交流の推進)
10月	特別展「東洋の貨幣」	「ハイパーハイビジョン風土 記」美濃路編ソフト完成	完成	マイ・ミュージアム棟工事の 完成

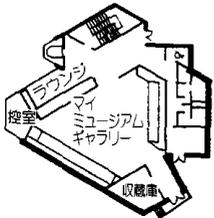
〔施設・設備〕

1 博物館

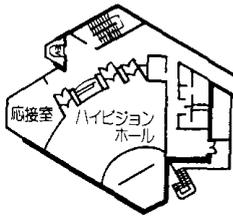
マイ・ミュージアム
1階



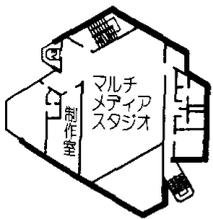
マイ・ミュージアム
2階



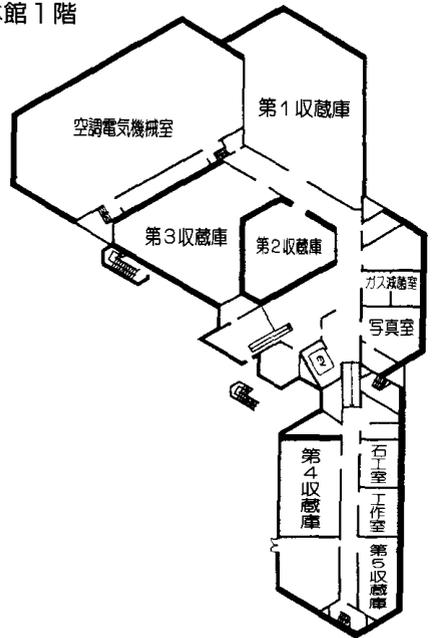
マイ・ミュージアム
3階



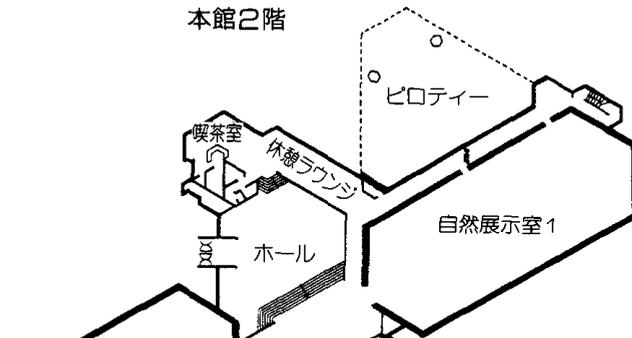
マイ・ミュージアム
4階



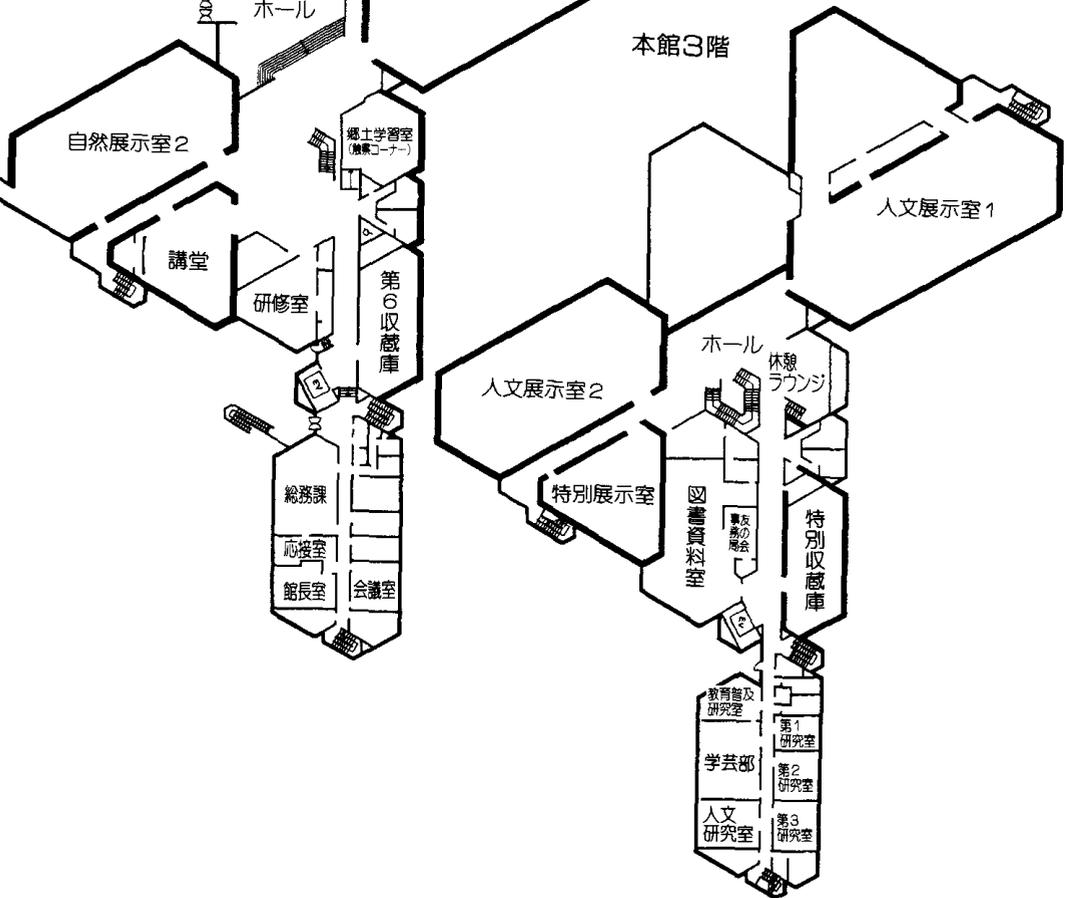
本館1階



本館2階



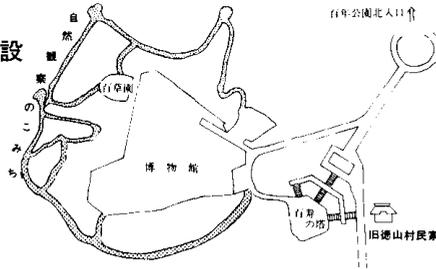
本館3階



・主要室名及び面積

本館	室名	面積(m ²)	マイミュージアム	室名	面積(m ²)	
1階	第1収蔵庫	314.1	1階	エントランスホール	76.0	
	第2収蔵庫	126.0		2階	マイミュージアムギャラリー	202.3
	第3収蔵庫	192.0			収蔵庫	25.3
	第4収蔵庫	99.4		控室	18.5	
	第5収蔵庫	55.0		3階	ハイビジョンホール	192.3
2階	自然展示室1	583.8	4階		調整室	47.0
	自然展示室2	478.8		マルチメディアスタジオ	206.3	
	自然郷土学習室	95.4			制作室	31.2
	講義室	174.5			特別応接室	43.8
	研修室	93.2				
	第6収蔵庫	142.8				
3階	人文展示室1	942.2				
	人文展示室2	478.8				
	特別展示室	193.2				
	図書資料室	232.0				
	特別収蔵庫	142.8				

2 館外施設



(1) 自然観察のこみち

館内における“郷土の自然”の展示に対応し自然環境の中に生きた展示として、季節とともに移り変わる自然のすがたを観察できるようにしたこみちである。

全長約830mで、途中見晴らし台が3ヶ所、万葉集の植物の案内、ツツジの群生地、百草園、マンサクの林などが設けられている。

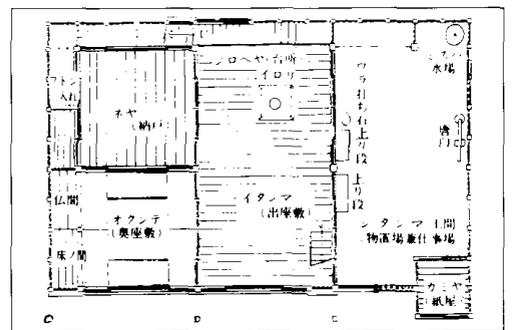
なお、樹林の特徴などが学習できるようグリーンアドベンチャー常設コースとして、40本の樹木にQ&Aパネルを設置している。

(2) 旧徳山村民家

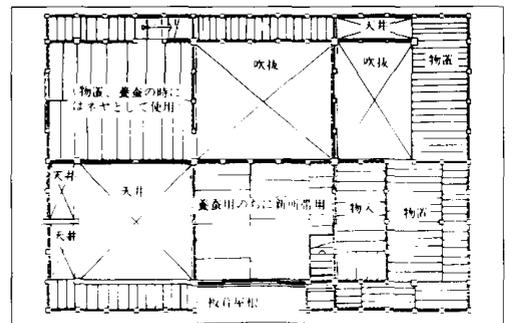
徳山ダム建設計画に伴い、徳山村は閉村となり藤橋村になったが、徳山の生活を後世に語り継ぐため、当時徳山村戸入在住の宮川澄雄さんから家屋の提供を受け、昭和62年10月7日、移築復元を完了したもので、生活用具なども展示し無料開放している。



- ・様式 木造かやぶき2階建、南平入り
- ・主材 ブナ・トチ
- ・建面積 120.97m²
- ・延面積 197.48m²
- ・間取り 下図参照
- ・建築年代 幕末から明治初年ごろと推定
- ・屋根 入母屋式、切り落とし窓つき



▲1階間取り図

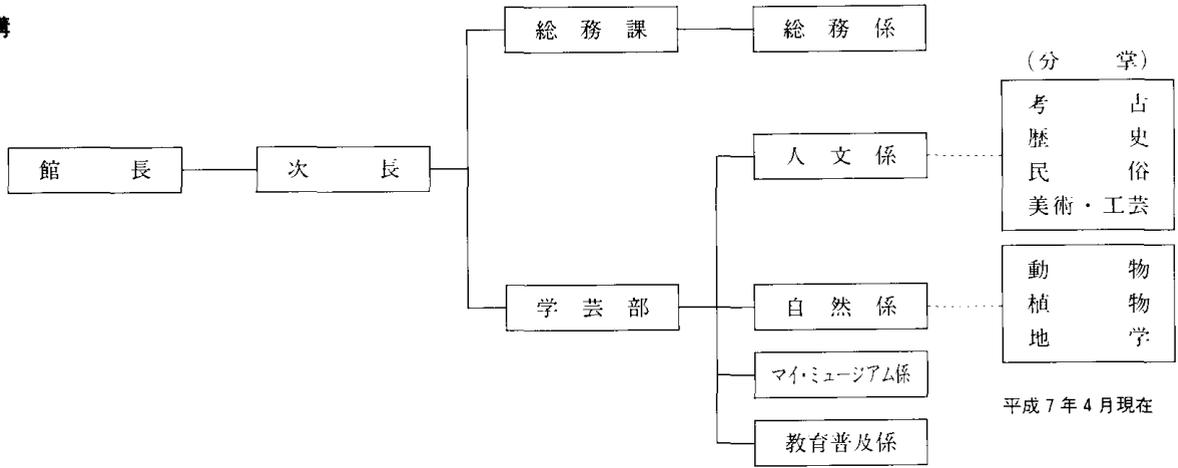


▲2階間取り図

II 平成7年度 組織・運営

〔組織〕

1 機構



2 職員

職 員	氏 名	職 員	氏 名	職 員	氏 名
館長	清水 廣美	〔学芸部〕		課長 補 佐	平井 正義
次長 兼 総務課長	竹中 敬明	学芸部長	石井 新太郎	(併) 〃	田中 正義
〔総務課〕		課長補佐兼人文係長	富田 幸八	学芸主 事	岩田 昌美
総務係 長	岩田 千恵子	(兼)課長補佐(民俗)	曾我 孝司	学芸嘱 託 員	梅溪 志寛
主任 事	小寺 弘春	学芸主 事(考古)	大塚 育也	課長補佐兼教育普及係長	安藤 尾英
〃	大滝 陽子	〃 (歴史)	渡邊 佐伸	(兼)学芸主 事	三尾 克
〃	酒井 美奈	主 事(美術工芸)	高橋 涼次	学芸嘱 託 員	小原
業務嘱 託 員	古野 村美保	課長補佐兼自然係長	鹿野 勘隆	〃	
〃	亀山 綾子	課長補佐(地学)	川合 好章		
〃	竹村 寿み	〃 (動物)	井上 健一		
〃	池藤 京子	〃 (地学)	説田 串		
〃	加藤 千津子	学芸主 事(植物)			
〃	田代	学芸嘱 託 員(昆虫)			
		課長補佐兼マイミュージアム係長			

〔事業計画〕

1 展示活動

事業名	期 間	主 な 展 示 内 容
常設展		自然展示室は「郷土の自然とおいたち」「郷土のさまざまな自然」をテーマに岐阜県の大地ができたようす、郷土の自然のあらまし、ふるさとの動物・植物・岩石等を展示。人文展示室は「郷土のあゆみ」と「郷土の美術工芸」をテーマに郷土の原始時代から現在に至る歴史的な遺産や伝統的美術工芸品を紹介。
特別展 「岐阜の淡水魚」 「美濃・飛騨の 古代史発掘」 ～律令国家の時代～	4/25～6/11 10/3～11/19	岐阜県に生息する淡水魚を、絶滅危惧種、国の天然記念物も含めて、剥製・液浸標本、飼育展示などにより紹介する。 律令時代の美濃・飛騨両国の歴史と文化の特色を、東山道・飛騨路を始めとする諸街道による交流の様子、両地域の遺跡の調査研究成果をふまえて紹介する。
資料紹介展 「南米ボリビアの三葉虫」 「岐阜とユタ州の恐竜」	7/11～8/4 8/10～9/3	南米ボリビアで産出した三葉虫をはじめとする化石とボリビアの民俗について紹介する。 岐阜県恐竜化石調査団の手取層における恐竜の調査研究成果の紹介とユタ州の恐竜について展示する。
特別陳列 「ふるさとの 文化財紹介展」	2/6～3/24	岐阜県下各市町村に所在する国や県指定の文化財をはじめとした優れた文化遺産を、シリーズ企画で紹介する。 本年度は岐阜地区を対象とする。

2 教育普及事業

事業名	期日	対象	定員	内 容
特別展講演会	5/5			「滅びゆく日本の淡水魚」 琵琶湖文化館学芸員 前畑 政善氏
	5/21			「長良川に生息する魚」 名古屋女子大学 教授 駒田 格知氏
	11/5			「古代寺院と瓦」 京都国立博物館 考古室長 森 郁夫氏
特別展シンポジウム	10/15			「古代の美濃・飛騨を考える」 三重大学 教授 八賀 晋氏他
文化講演会	11/3			「教科書にない自然—古老の語り—」 民俗研究家 脇田 雅彦氏
博物館講座	6/4			岐阜の淡水魚 岐阜県博物館元人文係長 大前 匡昭氏
	7/2			日本仏教の流れⅠ 岐阜県博物館元人文係長 大前 匡昭氏
	8/27			岐阜の恐竜 岐阜県博物館元人文係長 大前 匡昭氏
	9/10			日本仏教の流れⅡ 岐阜県博物館元人文係長 大前 匡昭氏
	9/23			岐阜の火山 朝日村秋神温泉 小林 繁氏
	10/22			きのこの講話 岐阜市立女子短期大学 教授 森 基子氏
	11/19			律令制下の美濃国・飛騨国 岐阜県博物館元人文係長 大前 匡昭氏
	11/26			日本仏教の流れⅢ 岐阜県博物館元人文係長 大前 匡昭氏
	1/28			日本仏教の流れⅣ 岐阜県博物館元人文係長 大前 匡昭氏
	2/11			岐阜地区の文化財紹介
2/18			岐阜の帰化植物	
3/17			岐阜地区の文化財紹介	
自然観察会	4/8	小中生 小中生	50	チョウを観察しよう
	4/29		50	観察のこみちの樹木を調べよう (グリーンアドベンチャー事業)
	5/27		45	鍾乳洞を探検しよう
	7/30		50	君もとれる! ポリビアの化石
	8/1		40	夏の植物ウォッチングⅠ
	8/8		40	夏の植物ウォッチングⅡ
	1/6		10	冬の植物ウォッチング
	1/13		50	百年公園のバードウォッチング
3/23	40	キノコ虫を観察しよう		
ジュニア恐竜探検隊	8/10 ~12	小学5・6年生	50	探検!! 恐竜回廊'95 宿泊: 福井県立青少年センター
陶芸教室	9/15	一般	30	茶碗 岡田孝司・春海氏
たのしい博物館	4/30		40	よろい・かぶとを着てみよう
	5/13		50	やきもの(日用品をつくろう)
	6/10		40	たのしい切り絵 今井 雅巳氏
	6/24		40	たのしい紙細工 水野 政雄氏
	7/8			クイズで探検!! 博物館
	8/20		50	竹細工(竹でおもちゃをつくろう) 石原 文雄氏
	9/9			ハイビジョンで楽しもう
	10/8			徳山のくらしを体験しよう 宮川 澄雄氏
	10/14			ハイビジョンで楽しもう
	10/28		40	円空彫りに挑戦しよう 円刀会会員
	11/11			ハイビジョンで楽しもう
	11/25		50	版画で年賀状をつくろう
	12/9			ハイビジョンで楽しもう
	12/17		50	凧をつくってあげよう 石原 文雄氏
	12/23		40	わら細工(正月の飾りをつくろう) 大野 仁久氏
1/27			ハイビジョンで楽しもう	
2/10		100	博物館の資料をかこう(写生会)	
2/24			ハイビジョンで楽しもう	
3/9			ハイビジョンで楽しもう	
特別行事	5/3	親子	100	ふるさと太鼓フェスタ'95 関係六太鼓保存会ほか
	10/22		100	きのこ王国岐阜体験ゼミナール 共催: 県林政部
	1/7		200	七草がゆを食べよう

3 マイミュージアムギャラリー展示計画

出展者	内 容
岩田 仲雄	各種数珠、美濃古陶など
井戸 誠嗣	ナイフ、刃物など
各務 今朝一	ヨーロッパのハンドバックなど
梅村 信芳	書画

出展者	内 容
可児 幸彦	フィルムカメラ
守ヶ洞 雅彦	書票、狂歌入り浮世絵
安田富貴子・鏡代	陶器、仏像、仏画など
船守 定喜代	羽織、帯など

マイミュージアムギャラリーの展示については、個人の責任でなされます。

III 平成6年度のあゆみ

〔職員〕

1 職員名簿

職名	氏名	職名	氏名
館長	横山 勢津男	〔学芸部〕	
次長兼総務課長	安江 真澄	学芸部長	石井 新太郎
〔総務課〕		課長補佐兼人文係長	野原 薫
総務係長	斎藤 紘子	課長補佐(美術工芸担当)	水野 亘雄
主任事	市原 聡	〃(民俗〃)	安田 守
	千田 友清	〃(歴史〃)	平井 正春
	大滝 陽子	学芸主事(考古・歴史〃)	大塚 章
	酒井 美奈	課長補佐兼自然係長	遠藤 俊治
業務嘱託員	長谷川 陽子	課長補佐(地学担当)	下畑 五夫
	亀山 綾子	〃(動物〃)	杉山 隆則
	加藤 京子	〃(地学〃)	川合 康司
	田代 千津子	学芸主事(植物〃)	井上 好章
	竹内 寿子	学芸嘱託員(昆虫〃)	説田 健一
	古野村 美保子	課長補佐兼教育普及係長	安藤 志郎
		(兼)課長補佐	平井 正春
		学芸主事	三尾 寛次
		学芸嘱託員	今尾 英夫
		〃	大前 匡昭
		〃	梅 溪 昌美

2 異動

転出 学芸部長	渡辺 利昭	転入 学芸部長	石井 新太郎
課長補佐	今津 利治	課長補佐	下畑 五夫
〃	後藤 常明	〃	川合 康司
学芸主事	前田 伸	学芸主事	井上 好章
主事	仁科 純子	主事	大滝 陽子

3 歴代館長名簿

	在職期間(年度)	氏名
1	昭和51年	小幡 忠良
2	昭和52年～昭和54年	松尾 克美
3	昭和55年～昭和56年	大橋 桃之輔
4	昭和57年～昭和58年	吉本 幹彦
5	昭和59年	関谷 美智雄

	在職期間(年度)	氏名
6	昭和60年～昭和61年	廣田 照夫
7	昭和62年～昭和63年	森崎 利光
8	平成元年～平成2年	伊藤 秀幸
9	平成3年～平成4年	篠田 幸男

〔日誌抄〕

平成6年度

- 4・1 「岐阜県博物館報」第17号発行
- 1 辞令交付
- 9 たのしい土曜教室「春のチョウを観察しよう」
- 25 特別展「川に生きる一水運と漁労一」開場式(～6月27日)
- 29 自然観察会「観察のこみちの植物を調べよう」
- 29 岐阜県博物館友の会総会
- 5・1 特別展講演会「長良川のアユづくり」
- 3 民俗芸能「関孫六太鼓」
- 5 親子教室「紙でいろいろなものをつくろうI」
- 8 日曜講座「特別展『川に生きる』展示のみどころ」
- 13 岐阜県博物館協会総会
- 14 たのしい土曜教室「やきもの(人形をつくろう)」
- 15 日曜講座「飛騨川・木曾川の木材流送」
- 22 自然観察会「根尾・美山の昆虫・植物ウォッチング」
- 29 特別展講演会「筏を流す」
- 6・6 県議会文教警察委員視察
- 11 たのしい土曜教室「やきもの(日用品をつくろう)」
- 16～17 東海地区博物館連絡会議(於：甲府市)
- 24 第三次県恐竜化石調査団結団式
- 26 陶芸教室「茶碗」
- 30 全館くん蒸(臨時休館～7月7日)
- 7・9 たのしい土曜教室「たのしい切絵」
- 17 資料紹介展「自然界のふしぎ発見」

(～9月4日)

- 17 日曜講座「鉱物・動物のふしぎ」
- 26 岐阜県児童生徒科学作品展移動展(～8月7日)
- 31 親子教室「火おこし器をつくろう」
- 8・12～13 ジュニア恐竜探検隊(福井県との交流事業)
- 21 親子教室「竹細工(笛・竹とんぼをつくろう)」
- 28 日曜講座「植物・昆虫のふしぎ」
- 9・10 たのしい土曜教室「秋のチョウを観察しよう」
- 25 陶芸教室「花瓶」
- 27 特別展「美濃山地の自然」開場式(～11月23日)
- 10・4～5 東海三県博物館協会交流研修会(於：岐阜市)
- 6～7 科学学習推進モデル事業(於：博物館)
- 8 たのしい土曜教室「クイズで探検!!博物館」
- 9 日曜講座「特別展『美濃山地の自然』展示のみどころ」
- 16 日曜講座「ふるさとのほ乳動物」
- 23 特別展講演会「美濃山地の地史」
- 30 親子教室「体感、『きのこ王国』秋だ!旬だ!」
- 30 入館者160万人突破
- 11・3 文化講演会「海の文化・山の文化」
- 6 自然観察会「根尾・美山の化石ウォッチング」(雨天中止)
- 10～11 全国博物館大会(於：神戸市)
- 12 たのしい土曜教室「よらい・かぶとのつくりを知ろう」
- 20 特別展講演会「美濃山地の生物相」
- 23 ふるさと探訪「美濃焼のふるさとを訪ねて」

- 12・4 親子教室「凧をつくってあげよう」
- 10 たのしい土曜教室「版画で年賀状をつくろう」
- 12～19 ユタ州訪問(化石の借用、交流の推進)
- 18 親子教室「わら細工(しめなわをつくろう)」
- 21 博物館職員研修会(接遇研修)
- 27 仕事納め式
- 1・4 仕事初め式
- 8 特別行事「七草がゆを食べよう」
- 14 たのしい土曜教室「百年公園のバードウォッチング」
- 18～19 福井県・岐阜県恐竜化石調査交流会(於：関市)
- 27 会計検査院実施検査
- 29 日曜講座「濃飛の古代寺院」
- 2・3 特別陳列「ふるさとの文化財紹介展」(～3月24日)
- 11 たのしい土曜教室「博物館の資料をかこう」
- 19 親子教室「紙でいろいろなものをつくろうII」
- 24 MMギャラリー企画運営会議開催(於：岐阜市)
- 3・7 岐阜県博物館協議会開催(於：岐阜市)
- 10 岐阜県博物館協会常任理事会開催(於：岐阜市)
- 11 たのしい土曜教室「美しい貝を知ろう」
- 19 日曜講座「『ふるさとの文化財紹介展』展示のみどころ」
- 27 マイ・ミュージアム棟完成引渡し

〔博物館協議会〕

当協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応じ、また意見を述べる機関として、岐阜県博物館条例(昭和51年)第2条の規定に基づいて設置され、委員は次のおとりである。

氏名	勤務先	現職名
小瀬 洋喜	大垣女子短期大学	大垣女子短期大学 学長
片桐 武司	学校法人岐阜済美学園	岐阜県私立中学高等学校協会長
金岡 勝一	岐阜県立大垣北高等学校	岐阜県高等学校長協会 副会長
熊田 光久	岐阜県博物館友の会	岐阜県博物館友の会 会長
○坂倉 又吉	千代菊(株)	千代菊(株)取締役会長
篠田 薫	かぐや第三幼稚園	学校法人篠田学園 かぐや第三幼稚園 副園長
島崎 藤雄	岐阜市方県公民館	岐阜県公民館連合会 会長
◎土屋 齊	(株)大垣共立銀行	(株)大垣共立銀行 取締役名誉会長
中西 良太	岐阜市立東長良中学校	岐阜県中学校長会 会長
松野 知文	岐阜市立長良西小学校	岐阜県小学校長会 会長
溝脇 昭人	名古屋テレビ放送(株)岐阜支局	名古屋テレビ放送(株)報道部
和田 吉弘	岐阜大学教育学部	岐阜大学教育学部 生物地学科 教授

〈開催状況〉

月 日 平成7年3月7日
 場 所 岐阜県民ふれあい会館
 特別会議室
 議 事 ・マイ・ミュージアムについて
 ・マイミュージアムギャラリーの運営に関する検討
 ・その他

◎…会長 ○…会長代理

(平成7年3月31日現在 五十音順)

〔実施事業の概要〕

平成7年3月27日、開館以来最大の事業であるマイ・ミュージアム棟の竣工がなった。昨年1月来、百年公園の20年近くのしじまを破った建設の槌音は、博物館の新時代の到来を告げる木霊であった。新時代の幕開けはなった。

総面積1,632.9mの新棟は、落ち着いた薄焦茶のレンガ状の外壁と、周囲の自然を写すミラーガラスの対比が映える近代的偉容を誇る。1階のエントランスホールは、実際は地階に当たり、来館者にとってのアクセスは、この棟のエレベーターとあいまって、従前よりはるかに容易なものとなった。

2階のマイミュージアムギャラリーに展示される県民の収集・所蔵品の応募も40件を超え、展示計画案もまともオープンを待つばかりである。3階ハイビジョンホールで150インチの画面に写し出される風土記（美濃路編）の完成は、世界初のソフトシステムとして各界からの注目を集めている。ここは4階のマルチメディアスタジオと併せ通産省のマルチメディア情報センターとして全国6機関の1つであり、創る、見る、発信する機能を備えたマルチメディア工房として発展することを使命とした施設である。（詳細別掲）

平成6年7月に大野郡荘川村尾上郷で実施された第3次県恐竜化石調査団の調査では、東海地区で初めて「含恐竜化石地層」を確認、獣角類のものとみられる恐竜の歯など6点を同定した。また、博物館交流事業の一環として、岐阜県産である可能性が高い恐竜卵化石の研究調査を、福井県博物館と進め、その結果の報告ができたことも特筆に値する。

その他、アメリカユタ州との博物館交流事業では、平成6年12月に2名の職員がユタ州に派遣され、ブリガムヤング大学地球科学博物館をはじめ各地の博物館との交流を一層深め、「花フェスタ'95」展示のスーパーサウルス

等の恐竜化石借用の実をあげ、将来にわたる友好関係樹立のためのコンセプトを交わした。

施設面では、3年に1度の全館くん蒸を行い、環境整備事業として、本年度も屋上防水工事が行われた。展示備品としては珍種イトウなど主に魚類の剥製標本の作成ができた。

1 調査研究活動

人文関係では、「岐阜県の風土」というテーマで、失われつつある郷土の山村の人々の暮らしを中心に、歴史や遺跡等を含め総合的に調査し、伝統的な生活文化の記録保存を図った。自然関係では「伊吹の自然」というテーマのもとに、伊吹山、霊仙岳を中心とする伊吹山系一帯の自然を総合的に調査研究を行った。

2 展示活動

下の表に示すように、特別展2回、資料紹介展1回、特別陳列1回を行い、スタディコーナーの充実を図った。

3 資料収集活動

人文関係では、来年度の特別展に因んで、美濃・飛騨地区の古代史発掘に係わる資料の収集に努めた。自然関係では、やはり特別展との係わりで、岐阜の淡水魚や、その他珍しい魚類の標本資料の収集に力を注いだ。

4 教育普及活動

本年度は、日曜講座8回、土曜講座11回、親子教室11回、自然観察会6回など、例年以上にきまこまかな教育普及活動ができ、そのいずれも盛況であった。特に本年度新事業の親子教室「体感、「きのこ王国」秋だ！旬だ！」は、県林政部との共催になる初めての試みであり、120名を超す参加者は、百年公園で自ら採取したきのこの「きのこ汁」に舌つつみをうつなど、きのこに関する講演と併せて秋晴れの楽しい1日を体験した。3年目となる「七草がゆを食べよう」の特別行事にも、250名という参加者があり昨年以上の人気を博し、すっかり定着した行事となった。

なお、本年度入館者数は49,714名であった。

事業名	期間	展示内容	入館者数
常設展	年間	「武家社会」及び「郷土の100年」のコーナーにそれぞれ資料を追加し展示の充実を図った。刀剣も随時入れかえた。	
特別展 「川に生きる ～水運と漁労～」 「美濃山地の自然」	4/26～6/19 9/27～11/23	木材の川流し、筏による輸送を扱う「筏を流す」、籠の渡しや船橋を扱った「川を渡る」、川魚をとる漁具等を扱う「魚をとる」の三部構成により、川とともに生きた人々の姿を紹介した。 美濃山地の動・植物層、地層と岩石等の自然全体にわたって7部門構成で展示した。この地を特色づける根尾谷断層や濃尾地震の展示等に併せて、山村の民俗文化も一部紹介した。	10,670 15,056
資料紹介展 「自然界のふしぎ発見」	7/17～9/4	自然界のさまざまな不思議な生態や現象を、大地、植物、動物、昆虫、キノコの5部門での展示と、観察・実験法の実際を提示した。	7,727
特別陳列 「ふるさとの文化財紹介展 ～西濃地区～」	2/3～3/24	岐阜県下6地区の貴重な文化財等の優れた文化遺産をシリーズ企画で紹介する初年度。西濃地区20市町村の特色ある資料を一堂に展示しこの地区の特色を明らかにし紹介した。	4,785
スタディコーナー	年間	「刀剣」（4月）「大型ほ乳類の足跡」（～6月）「徳山の縄文時代」（5月～7月）「慾齋が描いた虫」（6月～8月）「世界の陶芸」（8月～9月）「ドングリと紅（黄）葉」（9月～11月）「いろいろなはかり」（10月～2月）「水辺の鳥・カモ」（12月～2月）「刀剣」（3月）「軟体動物の分類と進化」（3月）	

〔刀剣展示・スタディコーナーの概要〕

1 刀剣コーナー

人文展示室2の「刀剣コーナー」では、美濃の刀剣を中心に、備前刀など他国で作刀された名刀や珍しい刀剣を展示した。平成6年度の年間展示資料は、下記のとおりである。

第 1 期				第 2 期				第 3 期			
平成6年4月1日～平成6年9月11日				平成6年9月12日～平成6年11月25日				平成6年11月26日～平成7年3月31日			
刀	無銘	志	津	刀	無銘	志	津	刀	無銘	志	津
刀	無銘	直 江 志	津	刀	無銘	直 江 志	津	刀	無銘	直 江 志	津
刀	銘	長 谷 部 国	信	刀	銘	長 谷 部 国	信	刀	銘	長 谷 部 国	信
太刀	銘	兼	光	太刀	銘	波 平 行	安	太刀	銘	波 平 行	安
刀	銘	濃 州 赤 坂 住 兼	元	太刀	銘	兼	光	太刀	銘	兼	光
刀	無銘	大	道	刀	銘	濃 州 赤 坂 住 兼	元	刀	銘	濃 州 赤 坂 住 兼	元
短刀	銘	兼	直	刀	無銘	大	道	短刀	銘	左	
槍	銘	兼	貞	短刀	銘	兼	直	寸延短刀	銘	伝 広	光
刀	銘	洛陽住尾崎長門介藤原正隆		槍	銘	兼	貞	槍	銘	兼	貞

りである。特に、年間を通じて、太刀・打刀・短刀・槍など各種の刀剣を展示したり、刀身だけでなく、常設展の一部に「拵コーナー」を設け、太刀拵・打刀拵・薙刀拵・槍拵などを展示し、小中学生から一般の方まで広く刀剣に親しめるようにした。また、同時に刀鍛冶の製作過程など実物資料を通して学べるようにした。

2 スタディコーナー（人文）

①「刀剣」（4月）

刀剣の名称や種類、鑑賞のポイントなど実物資料を用いて分かりやすく解説した。

②「徳山の縄文時代」（5月～7月）

現在発掘調査が行われている旧徳山村から出土した代表的な土器や石器を展示し、縄文時代に生きた人々の姿の一端を紹介した。

③「世界の陶芸」（8月～9月）

イタリア・台湾など珍しい陶芸作品を展示した。

④「いろいろな秤」（10月～2月）

米俵など重い物をはかる千木秤、金・銀・薬など少量で精度が必要な物をはかる皿秤、両替商の天秤などを紹介し、今では目にすることの少なくなった秤を見直す契機とした。

3 スタディコーナー（自然）

このスタディコーナーでは、ふるさとの自然資料に関わるトピック的な話題や季節にマッチした身近なテーマを、地学、動物、植物の各分野ごとに実物資料と解説パネルでわかりやすく展示紹介している。

◇「大型ほ乳類の足跡」…3月～5月

平成5年3月、美濃加茂市で発見された大型ほ乳類足跡化石を採掘して展示した。美濃加茂市、可児市を中心に堆積している新生代第三紀の可児層群から産出するほ乳動物や貝類、魚類、植物等の化石、また現世サイの歩行調査も展示し、当時の環境の推察を行なった。

◇「慾斎が描いた虫」…6月～8月

草本学者として有名な飯沼慾斎は、『本草図譜第九巻虫部・介部』に約130種類の昆虫を描いた。今回は、その中からギフチョウ、タガメなどを紹介した。

◇「ドングリと紅（黄）葉」…9月～11月

カジヤシイの仲間の実を通称、ドングリと呼んでいるが、その種類や見分け方などわからないことが多くある。そこで、ドングリを実際に分類できるように実物標本をもとに展示した。また紅（黄）葉のしくみの不思議さを図資料と実物標本をもとに展示した。

◇「水辺の鳥・カモ」…12月～2月

冬鳥「カモ」には、姿の美しい鳥が多い。今回はアヒルの原種であるマガモ、長い尾（ピンテールと呼ばれる）をもつオナガガモ、雌雄の仲が良いオシドリなどよく親しまれる鳥を中心に紹介した。

◇「軟体動物の分類と進化」…3月

現在8万～10万の種類を誇る軟体動物は、数億年の間に様々な進化をとげた。その進化を捕食者との関係から紹介した。



〔特別展〕

1 「川に生きる ～水運と漁労～」

4月26日(火)～6月19日(日)

山林に恵まれた飛驒、美濃両国は早くから森林の開発がすすみ、切り出された木材は飛驒川、木曾川、長良川、高原川などを通じて運ばれ、川は木材輸送の大動脈としての役割を果たしていた。近世になると河川交通がさかんになり、道が川と交わる場所では渡し船、船橋、籠の渡しなど、いろいろな工夫がなされた。また、川にはいろいろな種類の魚が生息し、人々は長い経験から得た知識と工夫によって、さまざまな漁具、漁法を生み出してきた。

本展では、水運と漁労に焦点をあてて、川とともに生きる人々の姿を紹介し、ふるさとの川に関心をいだき、川と人とのかかわりをさまざまな面から見つめ直す契機とした。

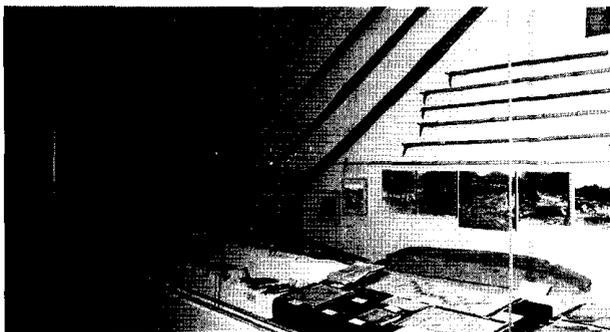
〈展示内容〉

(1) 筏を流す

鉄道や自動車交通が発達するまでは、川は物資の重要な輸送路であった。なかでも長大で重量のある木材の輸送に、川は大いに利用された。

ここでは、山中での立木の伐採・造材から谷川までの搬出、谷川から本流までの流送、本流上流部での流送、そして綱場で筏に組み、その筏を下流の木材集散地まで流した木材の輸送の様子を、山樵用具、元伐関係絵図、運材模型、筏関係資料、運材絵図などの資料378点で紹介した。

主な展示資料は、国有形民俗文化財の「飛驒の山樵及び木工用具」、棧手・臼・修羅・筏などの模型、下原中綱場・錦織綱場などの絵図、木材が幕府や尾張藩の御用材であることを示すため筏にたてた旗、地形がけわしい飛驒の山中で伐採した木材を、飛驒川から木曾川を経て尾張白鳥湊まで流送する過程を描いた木曾式伐木運材図会など。



(2) 川を渡る

川は道路交通にとっては障害であり、近代的な架橋技術が進むまでは、川を渡る手段もいろいろ工夫された。

ここでは、江戸時代から大正時代にわたって街道が横切る川に設けられていた船を利用した橋の資料、けわし

い山中の谷を横切る道に設けられた索道方式の籠の渡しに関する資料、そして現在も少数ながら残ってはいるが各地にあった渡船と川湊関係の資料など137点を紹介した。

主な展示資料は、木曾川にあった八神渡船の関係資料、岡田式渡船の関係資料、船上での生活用具、船大工道具、佐渡川・墨俣川・小熊川船橋絵図、籠の渡しの実物大模型・図・版画・根付、藤橋の図、木曾川・長良川舟運の運賃表など。



(3) 魚をとる

生鮮な魚介類は、私達の大切な蛋白源であり、川や池の魚や貝なども大昔から漁労の対象になってきた。

ここでは、岐阜県内の河川において行われているいくつかの伝統的な漁法とそれに用いられる漁具などを、魚の標本や写真などととも、155点の資料で紹介した。

主な展示資料は、サツキマス・アユ・アジメドジョウ・ヨシノボリ・チチブ・カジカ・アマゴ・ウグイ・モクズガニなどの標本、国有形民俗文化財の「徳山の山村生活用具」、とろ流し網・中狐網・夜川網・登り落ち・地獄網・アユ瀬張り網・カニ籠・アジメ釜・ぼうちょう網・投網・竹筒・地びき網・鶴縄漁等の漁具と写真など。



〈関連事業〉

○特別展講演会

5月1日「長良川のアユづくり」

岐阜大学教授 和田吉弘氏

5月29日「筏を流す」

岐阜大学教授 松田之利氏

○日曜講座

5月8日「特別展『川に生きる』展示のみどころ」

5月15日「飛驒川・木曾川の木材流送」

○図録「川に生きる」(B5判 56ページ)

2 美濃山地の自然

9月27日(火)より11月23日(祝)

濃尾平野から北西の方向を眺めると主峰能郷白山(1617m)を中心に、標高1000mを越える美濃山地の山々が連なっている。

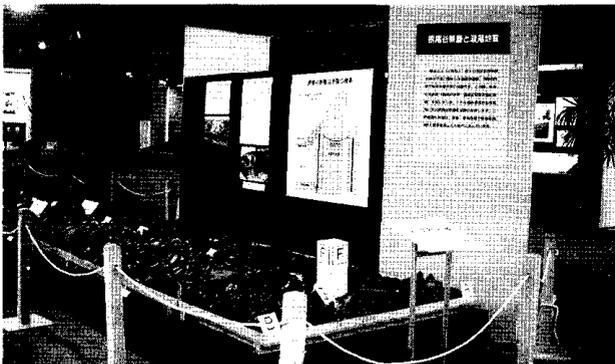
美濃山地の地質は、古生代から中生代のグリーンロック、石灰岩、チャート、砂岩などからなる美濃帯やそれより新しい花こう岩、花こう閃緑岩あるいは流紋岩などから構成されている。チャートや石灰岩には、放散虫、シカマイアあるいはフズリナなどの化石が多く含まれ興味深い地域である。

また、美濃山地一帯は、活断層が多い。その一つである根尾谷断層は、1891年に濃尾地震を起こし本県に多大な損害を与えた。人々の目の前で出現した地震断層は世界的にも注目を浴び、昭和2年に国の特別天然記念物に指定されている。

脊梁山脈の一部をなし、分水嶺でもある美濃山地は、多くの植物分布境界線がある。また、県下でも有数の石灰岩地帯のため好石灰岩植物が多く、これを寄主とする特徴的な昆虫がごく最近発見された。山麓から山頂部一帯に分布する常緑広葉樹林から落葉広葉樹林には、イノシシやクマなど県内で見られるほとんどの種類の野生動物が生息している。このように美濃山地の植物相や動物相は、変化に富んでいる。

この自然に恵まれた美濃山地は、福井・滋賀両県と境をなし、古くから西の文化との接点として、能郷の能狂言のようなこの地域独特の文化をはぐくんできた美濃のふるさとともいえる地である。

本特別展では、美濃山地の自然の展示を通して、ふるさとの自然史と自然との共生を図ったこの地の先人の文化の一端を紹介し、今日的課題である自然保護と生活、ふるさととアイデンティティの育成の一助となることを目指した。



<展示内容>

次の7つのコーナーに分けて、標本239点、民俗資料18点、レプリカ・模型14点、地震資料4点、パネル・写真102点、合計377点を展示した。

(1) 山村の民俗文化

中世の面影を伝える能狂言、トチの木と木地師、コウゾ

と紙すきの技術や文化について、実物・写真資料で展示。

(2) 生息する動物たち

ブナを代表する森林地帯に生息するツキノワグマ、ホンシュウジカ、ニホンイノシシなどの大型ほ乳類の剥製標本やネズミ・モグラの分布をはじめとして、野鳥、分布が興味深いオヤニラミ、石灰岩地域に多く棲む陸貝を展示。

(3) 特色ある昆虫の分布

ブナ林に見られるマヤサンコブヤハズカミキリなどの寒地性昆虫や、川沿いに残された照葉樹林に生息するヒメハルゼミ・ヒサマサツミドリシジミなどの暖地性昆虫の標本を展示。

(4) 変化に富む植物相

温帯林と暖帯林の接点でもあり、同時に日本海側と太平洋側との接点でもあるため多様な植物が見られる。また、めずらしい好石灰岩植物、シダ植物あるいはカワノリも分布している。これらの標本を展示。

(5) 地層と岩石の宝庫

岩石や地層、フズリナやサンゴなどの化石から明らかにされた美濃山地の大地の生い立ち、世界でも最大級の二枚貝シカマイアの化石及びその復元模型を展示。また、能郷白山の山体をつくる花こう閃緑岩の絶対年代を測定した結果、従来考えられていたより約5000万年も新しいことがわかったのでそれも合わせて紹介した。

(6) 鉱物資源の菊花石

マンガン、スカルンなどの小鉱山が多く、盛んに採掘されていた。現在は、石灰岩・ドロマイト鉱山が稼働している。また天然記念物の菊花石を展示。

(7) 根尾谷断層と濃尾地震

多大な被害を及ぼした濃尾地震の地震波の記録、震源である根尾谷断層のはぎ取り標本などを展示。

<関連事業>

○特別講演会

10月23日「美濃山地の地史」

岐阜大学助教授 小井土 由光氏

11月20日「美濃山地の生物相」

名古屋女子大学教授 佐藤 正孝氏

○日曜講座

10月9日 特別展「美濃山地の自然」展示のみどころ

当館学芸員

○自然観察会

5月22日 根尾美山の植物ウォッチング

11月6日 根尾美山の化石ウォッチング(雨天中止)

○図録出版

「美濃山地の自然」B5版、63ページ

〔資料紹介展〕

自然界のふしぎ発見

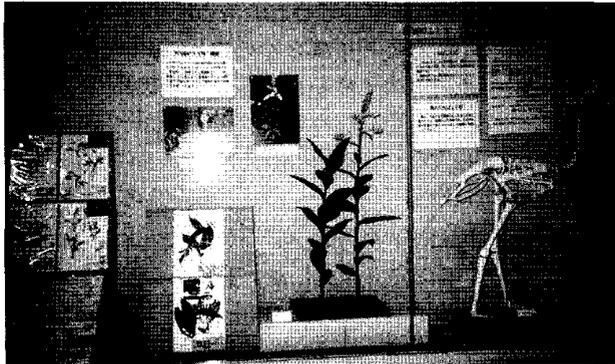
平成6年7月17日(日)～9月4日(日)

地球が誕生して46億年、生命が誕生して35億年。その間、大地も大きく変化を繰り返し、生物も多様な種を生み出してきた。絶滅した種もあれば、それぞれに形を変えながら生きぬいてきた種もある。したがって、自然界には、人間の想像を越えた複雑で魅力的な、時には「ふしぎな」と形容したくなるほどの生命の営みや事象がみられる。

木の葉にそっくりに擬態する昆虫「コノコムシ」。鋭いくちばしを巧みに動かしエサを取る「イヌワシ」や「トビ」湿地に巧みに適応している氷河期の生き残りといわれる「ミカワバイケイソウ」。

太古に生きた様々な生物の生活の様子を見事にうつしだしている「化石」の数々。

本資料紹介展では、来館者の方々に、上記のような自然界のすばらしさの再発見の場となり、より自然に親しむことにつながるようになるように配慮した。



植物と動物のふしぎの展示の一部

〈展示構成〉

館蔵資料を中心に、180余点の資料を下記のような構成のもとに展示した。

- | | |
|------------|------------|
| (1)大地のふしぎ | (2)植物のふしぎ |
| (3)動物のふしぎ | (4)昆虫のふしぎ |
| (5)キノコのふしぎ | (6)自然を調べよう |

(1) 大地のふしぎ

進化の様子や現世の生物との関わり深い地学資料を展示した。

生きている化石としては、1～2億年前のシーラカンスの化石や2000年～3000年前のアリ・ハエなどが、そのままの姿で残っている琥珀などを展示した。

また、最近、注目をあびているモサザウルスやスピノザウルス・エドモンドザウルスなどの恐竜や絶滅してしまったゾウの仲間(ナウマンゾウ)の下顎部分の歯を展示した。さらに、世界最大級の古代のサメ、カルカロド

ンの歯なども展示した。

(2) 植物のふしぎ

ウツボカズラなどの食虫植物、低地の湿原に残る氷河時代の遺存植物、スマレの仲間を増やす方法を展示した。

食虫植物では、東南アジア産のウツボカズラを立体標本で展示した。またスマレの仲間を増やす方法では、昆虫を利用した種子の拡散方法などを模型資料をもとにしてわかりやすく展示した。

(3) 動物のふしぎ

さまざまな鳥のくちばしの長さや形を比較しながら見ていくと、エサの違いやさらには環境まで見えてくる。

多くのくちばしや拡大写真を展示し、くちばしの比較ができるようにした。

(4) 昆虫のふしぎ

カブトムシの角の役割、種を残すために進化した昆虫や天敵から身を守るために特殊に進化した昆虫などを展示した。

天敵から身を守るために特殊に進化した昆虫では、隠ぺい色、擬態、警告色、毒等といった身を守る多様な方法を、コノコムシなどの実物資料と解説文で説明した。

(5) キノコふしぎ

昆虫を養分に成長するセミタケ、オオセミタケ、ツクツクボウシタケ、アブラゼミタケといった冬虫夏草などのキノコの変った姿や生活を実物資料で紹介した。

また、セミにつくキノコ以外にオサムシタケ・カメムシタケなど12種類を展示した。

(6) 自然を調べよう

岩石やチョウのりん粉や花粉など、自然界のミクロの世界を体験できるコーナーを中央部分に設けた。

岩石では、顕微鏡のステージを回しながらカコウ岩の中にある色々な鉱物の色を体験できるように工夫した。

〈関連事業〉

資料紹介展開催中の関連事業として、下記の実施した。

日曜講座

・7月17日

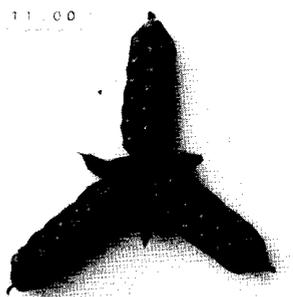
13:30～

「鉱物・動物のふしぎ」

・8月28日

13:30～

「植物・昆虫のふしぎ」



スマレの種の散布構造模型

〔特別陳列〕

「ふるさとの文化財紹介展」—西濃地区—

2月3日（金）～3月24日（金）

東西文化が交錯し、歴史に残る舞台にもなっている岐阜県には、さまざまな文化遺産がある。また、豊かな自然・風土は、多彩な民俗文化を育んできた。これらふるさとに根ざした県下のさまざまな文化財を一堂に集め、紹介することによって、ふるさとの文化財に親しみ、そのよさを再発見すると共に、文化財に対する認識をより一層深める一助となるよう企画した。今回は西濃地方20市町村を対象にした。

本特別陳列展では、指定文化財に限らず、それぞれの土地に関係の深い由緒ある文化財や資料を各市町村から3～4点選び紹介した。従って展示資料は、考古資料などの出土品から文書、絵図などの歴史資料、書画などの美術工芸品、および民俗芸能関係資料等多様となった。

〈主な展示構成〉

市町村別に展示する。①大垣市②海津町③平田町④南濃町⑤養老町⑥上石津町⑦垂井町⑧関ヶ原町⑨神戸町⑩輪之内町⑪安八町⑫墨俣町⑬揖斐川町⑭谷汲村⑮大野町⑯池田町⑰春日村⑱久瀬村⑲藤橋村⑳坂内村



〈主な展示内容〉

①雨乞いに関する資料展示

昨年の夏は、日照りで水不足が続いたため、各地で雨乞いが行われた。

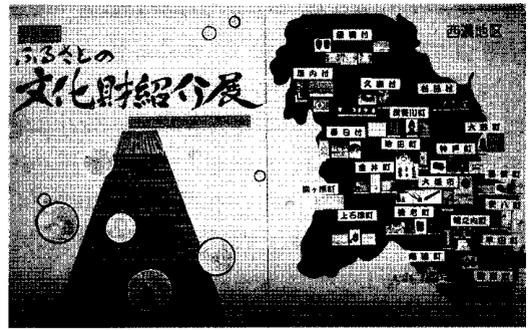
坂内村の雌雄が対になっている珍しい木彫りの「龍頭」（二対）や旧徳山村で雨乞いに使われた「雨乞い流し面」、また、大野町の張ると3粒の雨が降るといわれる水と龍の描かれている12メートルの「蛇幕」や「牛洞の雨乞踊り用具」など。

②民俗芸能に関する資料展示

西濃地区では、揖斐郡内をはじめ各地で、太鼓踊りや獅子神楽、文楽や歌舞伎狂言など数多くの民俗芸能が演じられ、今に伝えられている。

太鼓踊りでは、谷汲村の「谷汲踊り」や久瀬村の「東津汲鎌倉踊り」の用具、坂内村の「川上村のほうろ踊り」の用具、また、文楽に関しては、春日村の「檜文楽の操り人形」・大野町の「八木文楽頭」、さらにはからくり人形

としては、池田町の下東野の市山からくり花火に登場する「からくり人形」、養老町高田の曳軸のからくり「鶴」そして、坂内村の「広瀬歌舞伎の衣装」など。



③歴史的に価値のある資料展示

垂井町の「竹中半兵衛画像」、関ヶ原町の「関ヶ原合戦絵屏風」、墨俣町の一夜城址出土の「兜」や「柿の古文書」、揖斐川町の稲葉一鉄着用「素懸威鎧兜」、「揖斐陣屋之図」、また、平田町の輪中に関する絵図「大樽川洗堰絵図」、海津町の薩摩義士「平田靱負画像」、南濃町の城山古墳出土の「鉄製直刀」など。

④美術工芸に関する文化財資料展示

大垣市の「美濃後藤派金工作・刀剣装具」や梁川星巖画賛「高野紅葉図」、神戸町の刀鍛冶「兼信」の刀剣、「沈金彫経箱」、安八町の「後藤松陰の書」、海津町の「松平義建の書」、池田町の土岐頼忠筆「蒼鷹の図」、久瀬村の古仮面「日坂の面」など。

⑤その他、珍しい文化財資料展示

上石津町の「算額」、輪之内町の「森島簡齋の算術に関する著書」、久瀬村の長さ34メートル、珠1,216個もある「数珠」、神戸町の安八太夫伝説に関連した「夜叉姫感得地藏菩薩図」、春日村の大小30体の「懸仏」、海津町の治水や五穀豊穰の神として崇拝されている「禹王画像」、大垣市の梁川紅蘭愛用の明朝時代作「七絃琴」など。

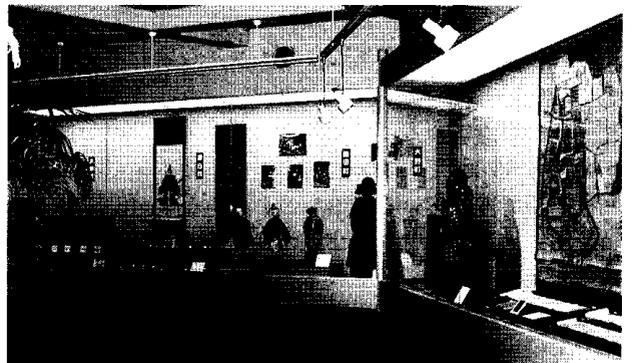
〈展示資料数〉

63種類 総点数180点

—内訳—

国指定文化財	1	県指定文化財	16
市町村指定文化財	13	無指定	33

本展の出品資料について、各市町村教育委員会や所蔵者から200字以内の原稿をいただき、それをもとに展示解説を行い、解説書を作製した。



〔調査研究・資料収集活動〕

—自然部門—

1 調査研究

<動物分野>

(1) 岐阜県の淡水魚の調査及び資料収集 (動物)

根尾村根尾川西谷と真正町五六川周辺で、淡水魚の調査及び資料収集を行なった。

採集した主な資料は、アカザ(ギギ科)、アマゴ(サケ科)、カジカ(カジカ科)、トウヨシノボリ(ハゼ科)、アジメドジョウ(ドジョウ科)、タカハヤ(コイ科ウグイ亜科)、アブラボテ(コイ科タナゴ亜科)、タイリクバラタナゴ(コイ科タナゴ亜科)、ヤリタナゴ(コイ科タナゴ亜科)、シロヒレタヒラ(コイ科タナゴ亜科)、オイカワ(コイ科ハエジャコ亜科)、ハリヨ(トゲウオ科)であった。

(2) 奥美濃の調査及び資料収集 (昆虫)

昨年に引き続き能郷白山地域を中心とした昆虫類の調査を行なった。

採集した資料は、ジョウザンミドリシジミ(シジミチョウ科)、ミヤマカラスアゲハ(アゲハチョウ科)、コムラサキ(タテハチョウ科)、ゴマダラチョウ(タテハチョウ科)、ウスバシロチョウ(アゲハチョウ科)、ヒメハルゼミ(セミ科)であった。



ヒメハルゼミ (セミ科)

<植物分野>

(1) 奥美濃の調査及び資料収集 (植物)

継続研究として、昨年に引き続き能郷白山地域を中心とした植物相の調査を行なった。

昨年度すでに採集した貴重な植物については、採集せず、スライド等の二次資料にとどめた。

キツリフネ(ツリフネソウ科)、ヒヨドリバナ(キク科)、フサザクラ(フサザクラ科)、トリアシショウマ(ユキノシタ科)、エゾユズリハ(トウダイグサ科)、ミズキ(キズキ科)、ミヤマヨメナ(キク科)、セリバオウレン(キンポウゲ科)、マイヅルソウ(ユリ科)、イブキトラノオ(タデ科)、クルマバハグマ(キク科)、オクモミジバハグマ(キク科)、シモツケソウ(バラ科)、エンレイソウ(ユリ科)、ツクバネソウ(ユリ科)、マルバダケブキ(キ

ク科)、オオカニコウモリ(キク科)、オオバクロモジ(クスノキ科)、ヤマドリソウ(ムラサキ科)、ラショウモンカズラ(シソ科)、コタニワタリ(チャセンシダ科)、ハクサンハタザオ(アブラナ科)、クモノスシダ(チャセンシダ科)、ミミナグサ(ナデシコ科)、チゴユリ(ユリ科)、サンカヨウ(メギ科)等の資料を収集し、特別展「美濃山地の自然」にこの中、5割程度を展示した。



サンカヨウ (メギ科)

(2) 北アルプス調査及び資料収集 (植物)

継続研究として、ワサビ平～鏡平～双六平一帯を中心とした地域の植物相を調査した。

この地域は特に貴重な植物が多いことから奥美濃地域と同様に、できるだけスライド等の二次資料にとどめた。

ベニバナイチゴ(バラ科)、オオヒヨウタンボク(スイカズラ科)、クロユリ(ユリ科)、ハリブキ(ウコギ科)、ヒトツバヨモギ(キク科)、オオバタケシマラン(ユリ科)、オニシモツケ(バラ科)、ツマトリソウ(サクラソウ科)、コバイケイソウ(ユリ科)、オヤマリンドウ(リンドウ科)、キバナノコマノツメ(スミレ科)、チングルマ(バラ科)、シナノキンバイ(キンポウゲ科)、ハクサンボウフウ(セリ科)、ヨツバシオガマ(ゴマノハグサ科)、ウラジロタデ(タデ科)、ゴゼンタチバナ(ミズキ科)、イワカガミ(イワウメ科)、クリマユリ(ユリ科)、ミソガワソウ(シソ科)、ミヤマキンポウゲ(キンポウゲ科)、ショウジョウバカマ(ユリ科)、ミヤマキンバイ(バラ科)、キヌガサソウ(ユリ科)等の資料を収集した。



キヌガサソウ (ユリ科)

〈地学分野〉

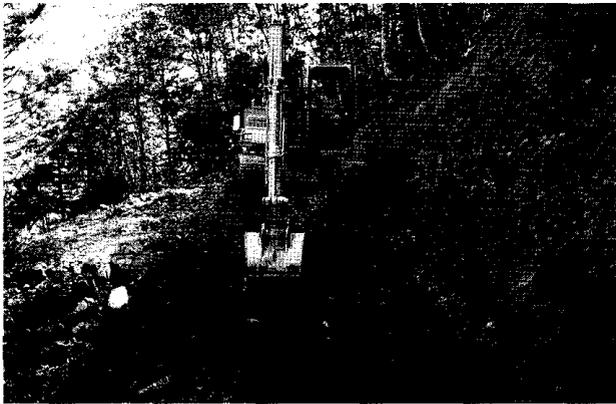
(1) 岐阜県恐竜化石調査

①調査団結成の経緯

岐阜県大野郡白川村の大白川上流域に分布する手取層群の中から恐竜の足跡化石が発見され、それを契機に結成された岐阜県恐竜化石学術調査団(第1次)は、1990～1992年の3年間にわたり白川村～荘川村地域に分布する手取層群について広範な学術調査を実施した。

第1次調査団に引き続いて組織された第2次調査団は、第1次調査団が荘川村地域において恐竜化石が含まれる可能性の高い地層として特定した地点の中から、尾上郷川支流大黒谷上流域の1地点を選び、1993年夏に発掘調査を行った。しかし、恐竜化石の発見には至らなかった。

こうした経過を受けて第3次調査団が組織され、第2次調査団による発掘地点とは別の大黒谷中流域の地点を恐竜化石が産出する可能性が高い地点として選び、1994年夏に発掘調査を実施した。



掘削作業の様子

②地質概要および発掘経過

発掘地点は、大黒谷中流域にあたる大黒谷林道ぞいの露頭(北緯36°02'22"、東経136°53'31"、標高約940m)である。

この地点を選んだ理由は、これまでにこの露頭から崩れた転石中から大型爬虫類の歯の化石が3点発見されており、この地点から恐竜化石が発見される確率が高いと考えたためである。発掘作業は1994年7月20日～29日の10日間にわたり行われた。

③地質の概要と発掘層準

発掘地点をふくむ尾上郷川流域に分布する手取層群は、下位から、大谷山累層、大黒谷累層、アマゴ谷累層、別山谷累層の4累層に区分され、これらの積算層厚は、2300m以上に達し、すべて整合に重なる。これらのうち、恐竜化石を含む可能性の高い層準は大黒谷累層の最下部とアマゴ谷累層の最下部である。

発掘地点には厚さ約35mにわたる地層が分布し、それらはアマゴ谷累層の最下部層準にあたる。その中で、林道面より約20m高い位置に約100cmの厚さで分布する最粒砂岩層が発掘の対象となる地層であり、ここでは「恐竜

化石含有層」と呼ぶ。

④発掘方法と経過

露頭の掘削は「恐竜化石含有層」を重機(バックホー)を用いて層位掘り(層面法)で行った。

林道よりもかなり高い不安定な場所を掘削したため、掘削された岩石は荘川村新湊の「荘川の里」まで搬出し、そこで化石の採取作業を行った。

1) 掘削作業(7月20日～22日)

「恐竜化石含有層」より上位にあたる露頭斜面を掘削して、「恐竜化石含有層」の上層面を幅約8m、奥行き約5mにわたり露出させたうえで、同層を厚さ70cm～100cmにわたって掘削し、掘削した岩石をトラックにより搬出した。掘削作業に並行して、露頭全体にわたる柱状図を作成した。

2) 化石採取(7月23日～29日)

搬出された岩石を「恐竜化石含有層」の岩石とそれ以外の岩石に区分し、前者を手作業で細片化しながら含有化石を採取した。

3) 発掘作業以後の経過

○9月上旬～10月下旬に採取された化石のクリーニング作業を行い、保存処理を行うとともに、採取化石のリストを作成した。

○10月9日に補足調査として「恐竜化石含有層」を中心に詳細な地質柱状図を完成させた。

○11月11～12日に福井県立博物館所蔵の恐竜化石の標本と比較し、同定を行った。



恐竜化石採取作業の様子

⑤調査の結果

今回の調査では、化石調査とともに調査地点の地質調査もあわせて行った。その結果、4点の恐竜化石をはじめ、多くの動物化石、植物化石を採取できた。また、当時の堆積環境も推定することができた。

なお、本調査の詳細な報告は、『岐阜県博物館研究報告書』Vol.16に発表した。

2 資料数一覧

(平成7年3月31日現在)

分野	館			蔵		借用	寄託	計
	実物	複製	移管・自作 その他	寄贈 (内数)				
動物	30,901	16	129	(16,740)	0	0	31,046	
植物	15,966	54	190	(1,797)	0	0	16,210	
岩石・鉱物	2,076	5	73	(542)	18	0	2,172	
化石	1,982	35	20	(1,078)	47	28	2,112	
その他	63	22	168	(21)	0	0	253	
計	50,988	132	580	(20,178)	65	28	51,793	

3 資料寄贈芳名一覧 (敬称略・順不同)

資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名	資料名	点数	芳名
陸貝	12	宮崎 惇	ホウシュウジカ、タヌキ	2	揖斐県事務所林務課	鹿児島産植物標本	250	鹿児島県立博物館
ニホンツキノワグマ	1	根尾村獺友会	イノシシ	2	本巣県事務所林務課	大垣市の植物標本	186	広田艶子
アオサギ、キジ	各1	本巣県事務所林務課	フクロウ	1	加茂県事務所林務課	イヌコモチナデシコ、 オニフスベ	各1	宮崎 惇
カヤネズミ	2	酒向保一	カワバタモロコ 他	13	中田宇元	県内植物標本	1,110	二村 延夫
オヤニラミ液浸標本	1	根尾中学校	バードカーピンク	20	山田良司	飛騨地方産植物標本	4,580	長瀬 秀雄
メジロ、コゲラ	各1	山田良司	フジミドリシジミ	2	村雲芳明	県内産シダ植物標本	56	村瀬 正成
キシマミドリシジミ	4	小倉正治	セグロアジサシ	1	郡上県事務所林務課	県内未確認植物標本	2	吉田 国二
魚液浸標本	30	水資源開発公団	カワヒガイ、タナゴ 他	8	小栗克彦	県内植物標本	300	山本 保雄
サケ	3	庄川沿岸漁業組合連合会	イトウ	1	北海道南富良野町役場	鉱物標本	50	大塚 虎雄
サツキマス	1	山中 茂	カネヒラ	1	佐藤 健	菊紋石(濃飛流紋岩)	3	松井 関光
ソウギョ、アオウオ他	4	琵琶湖文化館	日本産ツツキノコムシ	50	川那部 真			



ミノシライトソウ (ユリ科)
井波一雄氏寄贈標本



キヨミトリカブト (キンポウゲ科)
長瀬秀雄氏寄贈標本



シュウメイギク (キンポウゲ科)
二村延夫氏寄贈標本

— 人 文 部 門 —

1 調査研究

〈考古分野〉

○平成7年度秋季特別展「美濃・飛驒の古代史発掘」に係る調査研究…文献調査以外に、北陸地方の博物館等において飛驒と周辺地区との交流について、奈良国立文化財研究所及び正倉院等において中央（畿内）と美濃・飛驒との結びつきについて、県内各地の博物館や文化財センター、現地説明会等において美濃・飛驒の古代の遺跡及び出土品の調査研究をした。その研究成果を日曜講座「濃飛の古代寺院」で発表した。

〈民俗分野〉

○平成6年度春季特別展「川に生きる」に係る調査研究…前年度に引き続き「筏を流す」「川を渡る」「魚をとる」の3分野において、文献調査、現地調査を実施するとともに、関連資料の寄贈を受けた。特別展の図録を作成し、特別展に係る日曜講座「飛驒川・木曾川の木材流送」を開催するとともに、『岐阜県博物館調査研究報告』Vol.16に研究成果を掲載した。

○平成7年度特別陳列「ふるさとの文化財紹介展—岐阜地区一」に係る調査研究…岐阜地区の17の各市町村の特徴がよく表れた文化財を主に文献等により調査研究

をした。

○平成8年度特別展「岐阜県の120年」（仮称）に係る調査研究…明治9年（1876）に当時の「岐阜県」と「筑摩県の一部」が合併して以後の、政治、経済、教育文化等の各分野における主だった出来事を、主に文献等により調査研究をした。

〈美術・工芸分野〉

○美濃・飛驒の染色及び織物に係る調査研究…文献調査以外に、岐阜県及び愛知県の博物館及び染色作家等を訪問し、調査研究をした。

○平成6年度特別陳列「ふるさとの文化財紹介展—西濃地区一」に係る調査研究…西濃地区20市町村の教育委員会の協力を得て、各市町村の特徴がよく表れた文化財の調査研究及び選定をし、冊子にまとめた。

○「ふるさとの文化財紹介展—西濃地区一」に関連して常設展の一部に特別コーナーを設け、西濃地区に関連する文人の書画を展示した。…梁川星巖、梁川紅蘭、江馬細香、蓑虫山人、野原棗州、高橋杏村、河村目呂二、大橋翠石、高木美石等

○平成7年度秋季の「入定300年記念円空展」に係る調査研究…名古屋城学芸員と共同で文献調査をするるとともに県内各地の円空仏等の現地調査をした。

2 資料数一覧

分 野	館			蔵		借 用	寄 託	計
	実 物	複 製	移管・自作 その他	寄 贈 (内 数)				
考 古	1,993	164	52	(1,797)	517	187	2,913	
歴 史	1,326	34	122	(1,314)	21	162	1,665	
民 俗	2,076	2	9	(2,071)	213	30	2,330	
美術・工芸	291	17	37	(237)	259	1,219	1,823	
そ の 他	0	0	0	(0)	0	1	1	
計	5,686	217	220	(5,419)	1,010	1,599	8,732	

複製には模型・ジオラマを含む（平成7年3月31日現在）

3 資料寄贈者芳名一覧（敬称略・順不同）

資 料 名	点数	芳 名
岡田式渡船焼印及び各務用水関係文書	120	岡 田 雅 雄
大坂の陣配陣図	1	西 田 幸 男
キリヨキほか	2	長 沼 好 明
ツリザオほか	13	宮 崎 富 士 美
筏の櫂	1	渡 辺 一 正
ト	1	白 木 太 郎
櫂	1	西 脇 忠 男
おもちゃの映写機	1	土 本 和 純
ダイホン	1	佐 藤 忠 夫
槍 銘 兼 貞（拵付）	1	兼 村 元 博
仏像・仏画・面ほか	63	安田富貴子・安田鏡代



昆沙門天画像
（安田富貴子・安田鏡代氏寄贈）

〔教育普及活動〕

1 概要

マイ・ミュージアム棟の開設を控え、出版物を見直すとともに、広報事業・「催しもの」の再点検を行なった。テレビ、ラジオ、新聞への広報については、情報提供のタイミングなどを勘案しながら、積極的に広報活動を行なった。

2 教育活動

(1) 催しもの

昨年度の反省から、参加者の応募の多い親子教室と博物館の特色が大きく表われる自然観察会の回数を増やした。41事業（別表P23）を開催し参加者は延べ人数は約3000人であった。

今年度の親子教室では、県林政部と共催して、『体感、「きのこ王国」秋だ！旬だ！』を開催した。博物館側が会場と人を提供する行政の枠を越えた新しい試みであった。PR活動は、林政部を通して行なった。電話受けであったため、申し込みが殺到したことは、来年度への反省材料となった。



ジュニア恐竜探検隊 団結式より

親子教室は、どれも定員以上の申し込みがあり、受付方法、教室の準備など、今後改善していく必要に迫られている。

新しい事業として、福井県との交流事業「ジュニア恐竜探検隊」が催された。小学校5・6年生だけで構成され、福井市において福井県や全国から集まった子供達と交流を深めた。50名の定員に対し200名近い応募があった。恐竜の雑誌で紹介されたため県外からの応募もあったが、県外からの応募者に対しては、事業の性質上広報の中で制約をする必要があるかもしれない。

陶芸教室や親子教室のやきものは、毎回好評であった。陶芸教室については、講師の方に大部分世話になるが、親子教室については、準備、後始末、やきものの管理など担当の学芸員と教育普及係で対応した。他職員の応援体制がない限り、教育普及係だけで対応はできない事業であった。

「七草がゆを食べよう」は、友の会会員のボランティアでスムーズに運営された。前日には、七草採集を兼ね

て自然観察会が開催され、大変好評であった。米館者にふるまった七草がゆは250食であった。

(2) 館内解説

館内常設展、特別展等の普及活動として、土・日曜日に定例の展示解説を行った。また、昨年度から始めた、業務嘱託員の手づくり解説「ワンポイントガイド」を引き続き作成し、米館者に配布した。

(3) 博物館連携促進事業

国立科学博物館が博物館と協力して科学学習を推進するための「科学学習推進モデル事業」を本館で実施した。この事業は、博物館と学校、青少年施設、団体等の連携のあり方について、研究、協議を行うことを目的としたもので、平成6年度は、10月6日～7日にかけて県博物館を会場に実施した。

県内博物館員、青少年自然の家職員、小・中・高教員30名の参加があった。

第1日目は、国立科学博物館動物研究部昆虫第1研究室の篠原明彦氏、国立歴史民俗博物館助教授の神庭信幸氏から博物館における資料の保存管理について講義があった。

第2日目は、化石や土器のレプリカづくりを行った。

(4) 博物館における学校等の研修

学校、社会教育機関等が組織した学芸員との共同授業や博物館での研修を指導、援助した。

・岐南町立北小学校6年生への援助指導

担任教諭との指導内容を打ち合わせるとともに、その内容に沿った博物館資料の検討と展開を考え、実際に授業を行った。人文では考古担当、自然では、古生物担当が指導にあたった。

・美濃地区初任者研修

学校における博物館利用の仕方に関する講話と学芸員5名の指導を受けての、児童・生徒向けの解説書づくりの実習を行なった。

3 業務嘱託員研修

特別展、常設展示解説のため、解説研修を次のように実施した。

・特別展等研修	8回
・常設展等研修	14回
・接遇研修	1回

4 広報活動

新聞を中心に、テレビ・ラジオ等マスコミに対して積極的に広報した。ラジオ「県政の窓」で、博物館紹介を11回シリーズで放送した。また、特別展、資料紹介展等の紹介記事を、岐阜新聞文化欄で連載した。マイ・ミュージアムリーフレットを作成し、各機関に配布した。

十六銀行柳ヶ瀬支店の特別展広報パネルの展示期間の変更を行なった。従来は、特別展開場と同時に次の企画の広報パネルが掲示されていたが、本年度から開催期間中は掲示することとした。

5 資料の貸し出し

他館での展示会等に貸し出した主な資料

(1)自然関係

・山口県立博物館（4. 18～6. 6）
ナウマンゾウ、デスモスチルス骨格他 15点

・名古屋市緑化センター（7. 19～9. 30）
中生代植物化石 20点

・飛騨山樵館（7. 11～9. 18）
中生代植物化石、動物化石 15点

(2)人文関係

・文化庁（10. 4～3. 31）
紺地白鷺文繡狩衣 1点

・岐阜市歴史博物館（10. 28～11. 27）
茶海気狩衣、能面 2点

・伊奈波県事務所（12. 22～12. 27）
パネル、岐阜県議会投票箱 13点

・土岐市美濃陶磁資料館（2. 23～7年5. 14）
青織部燭台 1点

6 博物館実習生指導

三重大学、駒澤大学、上越教育大学、信州大学、愛知学院大学、名古屋芸術大学、日本福祉大学より各1名、ビデオ機器を導入した。

岐阜女子大学より2名、計9名を指導した。

7 図書資料

図書資料室と郷土学習室で来館者の利用に供している。本年度は公立学校共済組合から50万円相当の図書の寄贈を受けた。

図書総資料は下の表の通りである。

	平成7年3月20日現在	備 考
人文関係	18,803冊	含埋蔵文化財
自然関係	8,226冊	含棚橋源太郎文庫
人文関係	22,029冊	

8 刊行物

本年度刊行した出版物は、下記の通りである。大きな変化はないが、催しもの案内を2種類作成し、気軽を持っていただけるようにA4判2つ折りタイプを新たに作成した。また、岐阜県博物館リーフレットや各種印刷物の見直し作業に着手した。

9 視聴覚関係

郷土学習室のビデオ学習コーナーは、再生機器の修理不能（ベータータイプ）のため、継続不能となった。学習コーナーのビデオは撤去し、新たに地歌舞伎視聴用に

平成6年度 刊行物一覧

名 称	発行年月日	判、頁	部 数	備 考
岐阜県博物館だより 第53号	6. 4. 1	B 5 4頁	2,500	友の会増刷
岐阜県博物館だより 第54号	6. 7. 1	B 5 4頁	2,500	(各500)
岐阜県博物館だより 第55号	6. 10. 1	B 5 4頁	2,500	
岐阜県博物館報 第17号	6. 4. 1	B 5 32頁	750	
マイ・ミュージアムリーフレット	6. 12. 27	A 4 6頁	1,000	
岐阜県博物館調査研究報告書 第16号	7. 3. 31	B 5 54頁	700	
平成6年度岐阜県博物館催しもの案内	6. 4. 1	A 4	18,000	
〃	6. 4. 1	B 4 表裏	12,000	
		B 3	3,000	
特別展図録				友の会増刷
川に生きる	6. 4. 26	B 5	600	(600)
美濃山地の自然	6. 9. 27	B 5	600	(800)
岐阜県の仏像	6. 11. 4	B 5	1,500	友の会発行
輪中と治水	6. 7. 25	B 5	1,000	友の会発行
白山の自然	6. 7. 25	B 5	1,000	友の会発行
特別展等ポスター				
川に生きる ポスター	6. 4. 1	B 2	1,500	
ちらし		B 5	25,000	友の会発行
美濃山地の自然 ポスター	6. 9. 6	B 2	1,500	
ちらし		B 5	25,000	友の会発行
自然界ふしぎ発見 ポスター	6. 6. 20	B 2	1,000	
ちらし		B 5	20,000	友の会発行
ふるさとの文化財紹介展 ポスター	6. 12. 27	B 2	1,300	
ちらし		B 5	20,000	友の会発行
資料紹介展・特別陳列パンフレット				
自然界ふしぎ発見	6. 7. 17	B 5 17頁	1,000	
ふるさとの文化財紹介展	6. 2. 3	B 5 28頁	1,200	

平成6年度 催しもの一覧

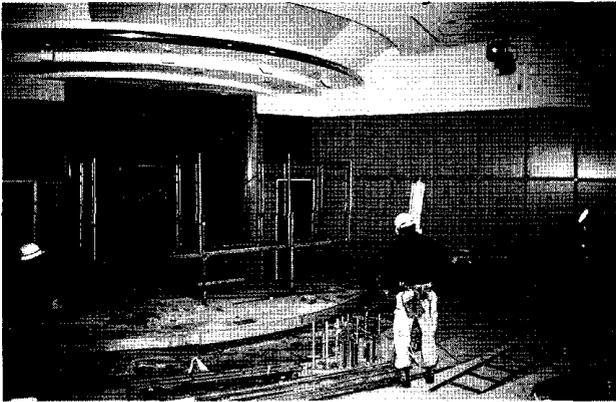
事業名	期日	対象	定員	内 容	参加人員
特別展講演会	5/1	高大生・一般		「長良川のアユづくり」 岐阜大学教授 和田吉弘氏	75
	5/29	高大生・一般		「筏を流す」 岐阜大学教授 松田之利氏	55
	10/23	高大生・一般		「美濃山地の地史」 岐阜大学助教授 小井土由光氏	61
	11/20	高大生・一般		「美濃山地の生物相」 名古屋女子大学教授 佐藤正孝氏	63
文化講演会	11/3	高大生・一般		「海の文化・山の文化」 作家 高田宏氏	90
日曜講座	5/8	高大生・一般		特別展「川に生きる」展示のみどころ	30
	5/15	高大生・一般		飛騨川・木曾川の木材流送	17
	7/17	小学生以上一般		鉱物・動物のふしぎ	26
	8/28	小学生以上一般		植物・昆虫のふしぎ	73
	10/9	高大生・一般		特別展「美濃山地の自然」展示のみどころ	21
	10/16	高大生・一般		ふるさとのほ乳動物	19
	1/29	高大生・一般		濃飛の古代寺院	82
	3/19	高大生・一般		「ふるさとの文化財紹介展」展示のみどころ	6
自然観察会	4/9	小学生以上一般	50	春のチョウを観察しよう	23
	4/29	小学生以上一般	50	観察のこみちの植物を調べよう(グリーンアドベンチャー事業)	72
	5/22	小学生以上一般	45	根尾・美山の昆虫・植物ウォッチング	49
	9/10	小学生以上一般	50	秋のチョウを観察しよう	28
	11/6	小学生以上一般	45	根尾・美山の化石ウォッチング	雨天中止
	1/14	小学生以上一般	50	百年公園のバードウォッチング	24
ジュニア 恐竜探検隊	8/12 ~13	親 子	50	探検//恐竜回廊(福井県との交流事業) 宿泊:福井県青少年センター	50
陶芸教室	6/26	一 般	30	茶碗 岡田孝司・春海氏	30
	9/25	一 般	30	花瓶 岡田孝司・春海氏	33
親子教室	5/5	親 子	40	紙でいろいろなものをつくろうⅠ 水野 政雄氏	40
	5/14	親 子	50	やきもの(人形をつくろう)	52
	6/11	親 子	50	やきもの(日用品をつくろう)	68
	7/9	親 子	40	たのしい切絵 今井 雅巳氏	42
	7/31	親 子	40	火おこし器をつくろう	67
	8/21	親 子	50	竹細工(笛・竹とんぼをつくろう) 石原 文雄氏	41
	10/30	親 子	80	体感、「きのこ王国」秋だ!旬だ! 主催:岐阜県林政部	120
	12/4	親 子	50	凧をつくってあげよう 石原 文雄氏	46
	12/10	親 子	40	版画で年賀状をつくろう	61
	12/18	親 子	50	わら細工(しめなわをつくろう) 大野 仁久氏	65
2/19	親 子	40	紙でいろいろなものをつくろうⅡ 水野 政雄氏	43	
たのしい土曜教室	4/9	小学生以上一般	50	春のチョウを観察しよう	23
	5/14	親 子	50	やきもの(人形をつくろう)	52
	6/11	親 子	50	やきもの(日用品をつくろう)	68
	7/9	親 子	40	たのしい切絵 今井 雅巳氏	42
	9/10	小学生以上一般	50	秋のチョウを観察しよう	28
	10/8	小中生・親		クイズで探検//博物館	78
	11/12	小中生・親	40	よろい・かぶとのつくりを知ろう	23
	12/10	親 子	40	版画で年賀状をつくろう	61
	1/14	小学生以上一般	50	百年公園のバードウォッチング	24
	2/11	小中生・親	100	博物館の資料をかこう(写生会)	166
3/11	小中生・親	50	美しい貝を知ろう	15	
ふるさと探訪	11/23	小学生以上一般	45	美濃焼のふるさとを訪ねて	49
特別行事	1/8	入館者	200	七草がゆを食べよう	250
民俗芸能	5/3	来場者		関孫六太鼓	約800

〔マイ・ミュージアム〕

マイ・ミュージアム本体工事は平成7年3月27日で終了し、数年来の夢が実現することとなった。平成6年度は、マイミュージアムギャラリーの出展者募集やその調査など開館を控えて活動が始まった。ハイビジョンソフトの制作も順調に進行した。

1 マイ・ミュージアム棟の建設

(1) 建設工事の進捗状況



建設中のマイ・ミュージアム棟内部（7年2月）

- ・平成6年1月20日 起工式
知事・副議長・教育委員長等多数列席して博物館駐車場で式典挙行。
- ・平成6年2月～ 庭園移設、解体工事
鹿児島庭園、日時計を百年公園内に移す。
- ・平成6年3月～ 山留、掘削工事
 - 5月～6月 基礎工事
 - 6月～7月 鉄骨建方
 - 7月～ 躯体工事
 - 12月～ 内装、外装、外構仕上げ
- ・平成7年3月27日 竣工
 - 4月～ 備品搬入
機械調整

(2) 施設の概要

鉄筋コンクリート地上4階

・建築物総面積 1,632.9㎡

・各階の概要

- 1 F エントランスホール、
受付、ロッカー室。
- 2 F マイミュージアムギャラリー
県民の収集・所蔵品の展示室、出展者控え室、
収蔵庫。
- 3 F ハイビジョンホール
150インチスクリーン、約130席の客席を持った
ホール、調整室
- 4 F マルチメディアスタジオ
マルチメディアスタジオ、制作室、特別応接室

2 「ハイパーハイビジョン風土記・ひだ・みの紀行」 美濃路編のソフトの制作

(1) ソフトの概要

岐阜県下を通る近世の4街道である美濃路、中山道、郡上街道、飛騨街道を基軸として、県下の人文・自然の事象を現代の風土記として紹介するソフトである。これは、対話型ソフト展開（自在な双方向検索）を可能にした世界初のハイビジョンマルチメディアソフトである。

(2) 制作の進捗状況

平成5・6年度に「美濃路編」を制作

制作委託先 (株)NHKエンタープライズ

平成6年4月 HD静止画スチール写真撮影

〃 5月 HD動画映像撮影

〃 7月 館内での資料撮影

〃 9・10月 HD静止画スチール写真撮影

〃 11・12月 HD静止画スチール写真撮影

N T S C 動画映像撮影

〃 12月 館内での資料撮影及び解説文作成

*年間を通じて写真資料を借用

平成7年1月 学習キーワード文作成

〃 3月 ソフト納入

制作費 6年度分 6,000万円

広報 年間を通じて、平成5年度制作のシュミレーションソフトを使用して広報活動を行う。



16世紀の築城で、関ヶ原合戦では一時西軍の本拠地となりました。1635年に戸田氏義が尼崎から移され、以後戸田家10万石11代の居城となりました。旧国宝の天守閣は空襲で焼失し、現在のものは1959年に再建されたものです。

豊後一徳城
竹中半兵衛
高橋藩
旗本高木常陸屋跡

(3) 「美濃路編」の内容

対象地域	垂井町・大垣市・墨俣町・柳津町・笠松町・羽島市・安八町・輪之内町・平田町・海津町・南濃町の11市町
インデックス画面 マップパネル	手書きイラストマップ+ハイビジョン動画 1階層（拡大マップなし）
C G 自由検索	オーバービュー、タイトル、輪中など あり
新規撮影	HD動画映像1回、N T S C 動画映像 1回、静止画スチール撮影(屋外5回、 館内2回)
事象例	垂井宿、大垣城、いちご栽培、笠松競馬場、サツキマス、下流の冬鳥、輪中の成立 など

3 マイミュージアムギャラリーの運営

(1) 概要

県民（在住、在勤、ゆかりの人）が収集・所蔵しているコレクションを募集し、一定期間、公開展示をする。外部委託の委員によるマイミュージアムギャラリー企画運営委員会を通じて承認された展示計画に従って順次、展示を行う。

(2) 進捗状況

平成6年4・5月 マイミュージアムギャラリー出展希望者募集（以後、随時）

10月までに43件の応募あり。

平成6年11・12月 出展品の全調査及び今後の出展可能者の登録作業

平成7年2月 マイミュージアムギャラリー企画運営委員会開催

平成7年3月 出展者に展示計画の連絡

(3) 平成6年度マイミュージアムギャラリー企画運営委員会の開催

平成7年2月24日、県民ふれあい会館で開催

○課題 マイミュージアムギャラリー運営の基本方針及び平成7年度展示計画について

・運営の基本方針

出展品の真贋、収集・所蔵者名の明記、展示品の売買行為、損害保険、図録の作成、広報などについて検討。

・平成7年度展示計画

○委員会の組織

平成6年度の委員は次のとおりである。（五十音順）

	氏名	役職
委員	浅野 勇	県市長会長
〃	荒井 正義	県町村長会長
〃	糸魚川 淳二	名古屋大学名誉教授
〃	岩田 仲雄	会社社長、収集家
〃	加藤 郁子	県地域婦人会連合会会長
〃	嶋崎 藤雄	岐阜県公民館連合会長
〃	辻 欣一	岐阜県社会教育委員連絡協議会長
〃	船戸 政一	関市教育長
〃	松本 五三	岐阜県博物館協会理事長
〃	山口 三男	県議会文教警察委員長
〃	吉田 豊	岐阜県芸術文化会議会長

会長には吉田豊氏、副会長には松本五三氏が就任。

(4) 出展申し込み品の主なもの

数珠、美濃の古陶、ナイフ、ハンドバッグ、ランプ、刃物関係、書画、書票、浮世絵、仏像、刀の鏝、火縄銃切手、菊花石、大工道具、花器、陣笠、化石、引札、トンボ玉、縄文土器、考古遺物など多種。合計43件申込。

4 マルチメディア情報センター

(1) 設置の背景

生活大国実現に向けて、文化性の高い、豊かな環境の実現。映像等新技術を活用した公共、産業、生活の各場面における新しい文化基盤の確立の要請が全国的に大である。他方、新技術への活用教育、基盤的ソフト供給は滞りがちである。よって、近い将来の基本的な生活支援機器として期待の高いマルチメディア機器を整備したマルチメディア情報センターを設置する。

(2) 目指す方向

センターは、地域の特徴及びニーズを踏まえた特色を出すことが肝要であり、中長期的な施設拡充、機能充実に加え、開業後の運営についても明確な指針が望まれている。いずれにせよ利用者が遊び心を持ってメディアに接し、親しみながら自己表現、情報発信ができるような身近なセンターとして行きたい。

(3) 整備した機能

マルチメディア情報を制作・編集、蓄積・検索、共同利用視聴の機能を発揮しうる設備・システムを整備するとともに、将来のマルチメディア社会に対応した地域の中核となりうるようなセンター機能の整備を目指した。

①情報の編集、加工のための支援機能（制作・編集システム）を、マイ・ミュージアム4階に整備した。

②映像、文字情報の蓄積・提供施設（データベースシステム）をマイ・ミュージアム3階及び4階に整備した。

③プレゼンテーションシステム

普及・啓蒙、指導・講習、成果発表、共同視聴等を行うため、大画面高精細ディスプレイ装置、高度音響装置等をマイ・ミュージアム3階に整備した。

④受発信機能

各地の情報センター等とのデータ交換等を行うための広帯域高速ネットワーク実験に参加する方向で検討をすすめている。

(4) 平成6年度事業

平成7年度から開始するセンターの円滑なる運用を目指して、マイ・ミュージアムプレ事業を通商産業省の支援を受けて実施した。

マイ・ミュージアムプレ事業として、

①学識経験者や情報産業関係者、国・県行政関係者から円滑なる運用に係わる助言を受けるマルチメディア情報懇談会

②導入機器の機能検証及び機器取り扱いの習熟を目指したハイパープロトタイプモデル実験

③センターの広報・普及用リーフレットの作成以上を行った。

〔図書資料寄贈者芳名一覧〕

(平成6年4月1日～

平成7年3月31日)

〔博物館関係〕

国立歴史民俗博物館

東京国立博物館

国立科学博物館

東京国立近代美術館

衆議院憲政記念館

国立科学博物館附属自然教育園

京都国立博物館

国立民族学博物館

北海道開拓記念館

北海道立北方民族博物館

小樽市博物館

釧路市立博物館

苫小牧市博物館

市立函館博物館

根室市博物館開設準備室

上土幌町ひがし大雪博物館

斜里町立知床博物館

穂別町立博物館

浦幌町郷土博物館

利尻町立博物館

青森県立郷土館

八戸市博物館

岩手県立博物館

北上市立鬼の館

岩手県農業博物館

仙台市博物館

仙台市科学館

斎藤報恩会自然史博物館

仙台市歴史民俗資料館

塩竈神社博物館

東北歴史資料館

秋田県立博物館

秋田県立近代美術館

山形県立博物館

致道博物館

うきたむ風土記の丘考古資料館

福島県立博物館

会津民俗館

茨城県立歴史館

土浦市立博物館

日立市郷土博物館

ミュージアムパーク茨城県自然博物館

栃木県立博物館

小山市立博物館

栃木県しもつけ風土記の丘資料館

栃木県立なす風土記の丘資料館

群馬県立歴史博物館

群馬県立近代美術館

大間々町歴史民俗館

浦和市立郷土博物館

埼玉県さきたま資料館

戸田市立郷土博物館

埼玉県立歴史資料館

千葉県立中央博物館

千葉県立郷土博物館

千葉市加曽利貝塚博物館

我孫子市鳥の博物館

市川市立市川自然博物館

千葉県立現代産業科学館

君津市立久留里城址資料館

千葉県立大利根博物館

千葉県立上総博物館

千葉県立安房博物館

船橋市郷土資料館

松戸市立博物館

千葉県立総南博物館

千葉県立房総風土記の丘

足立区立郷土博物館

板橋区立郷土資料館

太田区立郷土博物館

紙の博物館

渋谷区立松涛美術館

たばこと塩の博物館

江戸東京博物館

世田谷区立郷土資料館

通信総合博物館

出光美術館

豊島区立郷土資料館

三井文庫

港区立港郷土資料館

サントリイ美術館

江戸東京たてもの園

多摩六都科学館

調布市郷土博物館

八王子市郷土資料館

東京都高尾自然科学博物館

福生市郷土資料室

府中市郷土の森博物館

J R A 競馬博物館

町田市立博物館

町田市立国際版画美術館

神奈川県立博物館

神奈川県立金沢文庫

横浜マリタイムミュージアム

横浜市歴史博物館

川崎市市民ミュージアム

平塚市博物館

茅ヶ崎市文化資料館

秦野市立桜土手古墳展示館

横須賀市自然人文博物館

山梨県立考古博物館

松本市立博物館

日本民俗資料館

長野市立博物館

長野県立歴史館

飯田市美術博物館

上田市立博物館

大町山岳博物館

塩尻市立平出遺跡考古博物館

信濃町立野尻湖博物館

柏崎市立博物館

長岡市立科学博物館

相川郷土博物館

富山市郷土博物館

高岡市万葉歴史館

富山県立山博物館

石川県立歴史博物館

石川県立美術館

石川県輪島漆芸美術館

小松市立博物館

松任市立博物館

福井県立博物館

福井市自然史博物館

福井県立若狭歴史民俗資料館

大野市歴史民俗資料館

敦賀市立博物館

静岡県立美術館

静岡市立登呂博物館

久能山東照宮博物館

上原仏教美術振興財団

下田海中水族館

沼津市歴史民俗資料館

沼津市明治史料館

富士市立博物館

三島市郷土館

浜松市博物館

愛知県芸術文化センター
徳川美術館
熱田神宮宝物館
名古屋城
名古屋市博物館
名古屋市科学館
名古屋市見晴台考古資料館
でんきの科学館
一宮市博物館
博物館明治村
リトルワールド
日本モンキーセンター
瀬戸市歴史民俗資料館
豊田市郷土資料館
豊橋市美術博物館
豊橋市自然史博物館
豊橋市地下資源館
豊橋市二川宿本陣資料館
岡崎市郷土館
安城市歴史博物館
知立市歴史民俗資料館
半田市立博物館
尾西市歴史民俗資料館
トヨタ博物館
三好町立歴史民俗資料館
鳳来寺山自然科学博物館
愛知県清洲貝殻山貝塚資料館
四日市市立博物館
桑名市博物館
海の博物館
御木本幸吉記念館
鳥羽水族館
斎宮歴史博物館
藤原岳自然科学館
大津市歴史博物館
滋賀県立琵琶湖文化館
琵琶湖博物館開設準備室
彦根城博物館
長浜市立長浜歴史博物館
滋賀県立安土城考古博物館
滋賀県立陶芸の森
栗東歴史民俗博物館
京都市考古資料館
京都府立総合資料館
京都府京都文化博物館
京都府立丹後郷土資料館
大阪市立博物館
大阪市立科学館
大阪市立東洋陶磁器美術館

大阪人権歴史資料館
大阪市立自然史博物館
吹田市立博物館
大阪府立弥生文化博物館
堺市博物館
柏原市立歴史資料館
岸和田市立郷土資料館
大阪府立近つ飛鳥博物館
神戸市立博物館
UCCコーヒー博物館
兵庫県立近代美術館
神戸市立小磯記念美術館
兵庫県立歴史博物館
姫路文学館
尼崎市歴史博物館準備室
兵庫県立人と自然の博物館
大和文華館
橿原市千塚資料館
橿原考古学研究所附属博物館
香芝市二上山博物館
奈良県立民俗博物館
和歌山県立博物館
和歌山県立自然博物館
鳥取県立博物館
岡山県立博物館
岡山県立美術館
岡山市立オリエンタ美術館
津山洋学資料館
倉敷市立自然史博物館
広島市安佐動物公園
広島県立歴史博物館
広島県立歴史民俗資料館
宮島町立宮島歴史民俗資料館
山口県立山口博物館
美禰市歴史民俗資料館
秋吉台科学博物館
徳島県立博物館
徳島市立徳島城博物館
高松市歴史資料館
愛媛県立博物館
高知市立自由民権記念館
高知県立歴史民俗資料館
北九州市立歴史博物館
北九州市立考古博物館
北九州市立自然史博物館
福岡市博物館
九州歴史資料館
芦屋町歴史民俗資料館
佐賀県立博物館/美術館

佐賀県立名護屋城博物館
長崎県立美術博物館
長崎市立博物館
熊本県立美術館
宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
宮崎県総合博物館
みやざき歴史文化館
鹿児島県立博物館
鹿児島市立美術館
鹿児島県歴史資料センター黎明館
尚古集成館
ミュージアム知覧
名護博物館
岐阜県歴史資料館
岐阜県美術館
岐阜県立図書館
岐阜県陶磁資料館
岐阜市歴史博物館
岐阜市科学館
各務原市歴史民俗資料館
内藤記念くすり博物館
大垣市郷土館
大垣市歴史民俗資料館
タリイピアセンター
可児郷土歴史館
土岐市美濃陶磁歴史館
瑞浪市化石博物館
瑞浪陶磁資料館
歴史民俗資料館 高山市郷土館

〔博物館協会〕

全国科学博物館協議会
日本博物館協会
全日本博物館学会
岐阜県博物館協会

〔役所関係〕

愛知県総務部
名古屋市植物防疫所
木曾川下流工事事務局
京都府総合府民部文化芸術室
岐阜県企画部統計調査課
岐阜県企画部地域振興課
岐阜県商工労働部商工課
岐阜県農政部畜産課
岐阜県自治研修所
武儀県事務所
可茂県事務所
恵那県事務所

岐阜県保健環境研究所
岐阜県工業技術センター
岐阜県工芸試験場
岐阜県農業総合研究センター
岐阜県水産試験場
関市役所
土岐市役所企画開発課
古川町役場
伊自良村役場
川島町民会館
大垣市立図書館

〔教育委員会関係〕

北海道教育庁生涯学習部
宮城県教育庁
土浦市教育委員会
東京都教育庁生涯学習部
世田谷区教育委員会
港区教育委員会
神奈川県教育庁
大門町教育委員会
織田町教育委員会
浜松市教育委員会
知立市教育委員会
春日井市教育委員会
津市教育委員会
亀山市教育委員会
滋賀県教育委員会
山東町教育委員会
能登川町教育委員会
貝塚市教育委員会
泉佐野市教育委員会
能勢町教育委員会
尼崎市教育委員会
奈良県教育委員会
橿原市教育委員会
甘木市教育委員会
鞍手町教育委員会
大分県教育委員会
沖縄県教育委員会
岐阜県教育委員会
岐阜県情報処理教育センター
グリーンテクノセンター
岐阜県文化財保護センター
岐阜県学校保健会
岐阜県教職員互助組合
岐阜市教育委員会
各務原市教育委員会
糸貫町教育委員会

根尾村教育委員会
美山町教育委員会
大垣市教育委員会
海津町教育委員会
養老町教育委員会
関ヶ原町教育委員会
黒俣町教育委員会
関市教育委員会
洞戸村教育委員会
美濃加茂市教育委員会
可児市教育委員会
多治見市教育委員会
恵那市教育委員会
福岡町教育委員会
岩村町教育委員会
明智町教育委員会
高山市教育委員会
白川村教育委員会
国府町教育委員会

〔学校関係〕

秋田大学鉱山学部附属鉱業博物館
山形大学附属博物館
福島県立会津工業高等学校
筑波大学歴史人類学系
筑波大学地球科学系
図書館情報大学附属図書館
川村学園女子大学図書館
国学院大学博物館学研究室
国学院大学考古学資料館
多摩美術大学
東京農業大学農業資料室
日本大学文理学部自然科学研究所
東京芸術大学美術学部
明治大学刑事博物館
明治大学学芸員養成課程
学習院大学
立教大学学芸員課程研究室
お茶の水女子大学学芸員課程
東京大学地震研究所
東京農工大学附属繊維博物館
実践女子大学博物館学研究室
国際基督教大学湯浅一郎記念館
神奈川大学日本常民文化研究所
日本大学農獣医学部資料館
東海大学校地内遺跡調査団
帝京大学山梨文化財研究所
金沢大学理学部附属植物園
静岡大学理学部地球科学教室

東海大学海洋科学博物館
南山大学古渡城発掘調査会
名古屋大学古川総合研究資料館
名古屋大学美学美術史研究室
市邨学園大学人文科学研究会
市邨学園地域社会研究会
市邨学園自然科学研究会
愛知大学総合郷土研究所
愛知大学文学部
名古屋造形芸術大学附属図書館
同志社大学博物館学芸員課程
仏教大学図書館
京都工芸繊維大学美術工芸資料館
関西大学博物館
天理大学附属天理参考館
天理大学文学部考古学研究室
養老町立養老小学校
根尾村立根尾中学校
岐阜第一女子高等学校
羽島高等学校
不破高等学校
郡上高等学校
関商工高等学校
加茂高等学校
可児工業高等学校
岐阜大学教育学部
岐阜薬科大学
岐阜市立女子短期大学
岐阜経済大学地域経済研究所
聖徳学園岐阜教育大学
東海女子大学
聖徳学園女子短期大学
中京短期大学
中部女子短期大学
大垣女子短期大学
岐阜県高等学校生物教育研究会
岐阜県高等学校理科助手研究会
岐阜県高等学校教育研究会
岐阜県小中学校長会
岐阜県高等学校長協会
岐阜県PTA連合会

〔研究機関・出版社・その他〕

地質調査所
東京国立文化財研究所
国立教育会館社会教育研修所
国立劇場調査養成部資料課
国際生物学賞委員会
宮内庁正倉院事務所

奈良国立文化財研究所
 奈良国立文化財研究所飛鳥資料館
 北海道立アイヌ民俗文化研究センター
 北網圏北見文化センター
 青森県埋蔵文化財調査センター
 あきた結び文化研究会
 いわき市教育文化事業団
 群馬県埋蔵文化財調査事業団
 埼玉県立民俗文化センター
 千葉県文化財センター
 江戸四宿実行委員会
 板橋区四葉遺跡調査会
 葛飾区遺跡調査会
 濱田隆士教授退官記念事業会
 下中記念財団
 日本昆虫協会
 東京貝類同好会
 国画会事務局
 ポーラ文化研究所（文化振興財団）
 味の素食の文化センター
 都立学校遺跡調査会
 日本科学技術振興財団
 青少年交友協会
 日本ナショナルトラスト
 株式会社三貴
 古筆学研究所
 丹青総合研究所・文化空間研究所
 金属鉱業事業団資源情報センター
 テレコム高度利用推進センター
 世界自然保護基金日本委員会
 汐留地区遺跡調査会
 西国分寺地区遺跡調査会
 東京都埋蔵文化財センター
 株式会社ココロ
 都営川越道住宅遺跡調査会
 町田木曾森野遺跡調査会
 武蔵国分寺関連遺跡調査会
 落川・一の宮遺跡調査会
 馬事文化財団
 神奈川県立埋蔵文化財センター
 玉川文化財研究所
 川崎市立日本民家園
 平岡環境科学研究所
 遺跡調査団
 神奈川県立自然保護センター
 富山県埋蔵文化財調査事務所
 富山県埋蔵文化財センター
 富山市ファミリーパーク公社
 富山市科学文化センター
 石川県白山自然保護センター
 福井県自然保護センター
 静岡県埋蔵文化財調査研究所
 愛知県文化振興事業団
 中部建設協会
 行動と文化研究会
 瀬戸市埋蔵文化財センター
 景德鎮陶瓷展実行委員会
 豊橋市埋蔵文化財調査事務所
 愛知県埋蔵文化財センター
 海蔵寺
 三重動物学会
 三重県埋蔵文化財センター
 滋賀県埋蔵文化財センター
 京都服飾文化研究財団
 古代学協会
 国際日本文化研究センター
 国民融合をめざす部落問題全国会議
 日本生命財団
 クボタ
 大阪文化財センター
 のじぎく文化財保護研究財団
 元興寺文化財研究所
 帝塚山考古学研究所
 日本文化財科学会
 岡山県自然保護センター
 広島市歴史科学教育事業団
 熊平製作所
 草戸千軒町遺跡調査研究所
 鹿児島県立埋蔵文化財センター
 芸術出版社
 岩波書店
 日本美術刀剣新聞社
 雄山閣出版
 小学館
 続群書類従完成会
 文園社
 世界の動き社
 第一法規出版株式会社
 名古屋鉄道株式会社
 中信美術奨励基金
 毎日新聞社クリエイティブ本部
 岐阜教育会
 岐阜県郷土資料研究協議会
 岐阜県歴史資料保存協会
 岐阜県文化財保護協会
 中山道加納宿文化保存会
 岐阜県植物研究会
 慈齋研究会
 '94ぎふ平和展実行委員会
 岐阜乗合自動車社史編纂室
 各務原市埋蔵文化財調査センター
 岐阜県昆虫同好会
 養老町文化財保護協会
 岐阜県文化財保護協会大野支部
 大垣市文協協会
 東海地理研究会
 美濃民俗文化の会
 霊山顕彰会岐阜県支部
 岐阜県哺乳動物調査研究会
 美濃文化財研究会
 多治見市文化財保護センター
 美濃源氏フォーラム事務局
 中津川貨幣研究会
 西美濃わが街社
 美濃揖斐谷通信編集室
 郡上史談会
 岐阜新聞社

〔個人〕

大極勘兵衛
 山田光造
 村瀬一郎
 鈴木紀之
 宮崎 惇
 尾関 章
 水野政雄
 藤川五百子
 古川茂樹
 大野君子
 梅村信芳
 各務ヒロ
 栗田正秀
 村上英二

〔利用状況〕

1 入館者数

本年度は、入館者総数49,714人、前年に比べて約21.6%の減少となった。これは、マイ・ミュージアム棟建設工事による影響が考えられる。

また、開館日数は298日であり、1日平均の入館者数は167人であった。

月別の入館者数は右表のとおりである。

1日の入館者が最も多い日は、秋の遠足シーズンにあたる10月20日で、小学校の遠足12組を含む1,341人を数えた。

団体入館者数をみると、団体3,303人で入館総数の約6.6%のぼり、月別では3月が最も多く、団体入館者全体の約32.0%を占めている。

月	小中生	高大生	一般	計	開館日数	一日平均
4	1,927	219	2,761	4,907	26	189
5	2,229	463	4,259	6,951	26	267
6	451	238	2,530	3,219	25	129
7	839	640	1,446	2,925	21	139
8	1,852	228	2,696	4,776	26	184
9	687	96	1,907	2,690	26	103
10	6,509	83	3,328	9,920	26	382
11	2,697	180	2,725	5,602	26	215
12	275	57	696	1,028	22	47
1	387	52	843	1,282	23	56
2	487	66	1,684	2,237	24	93
3	981	843	2,353	4,177	27	155
計	19,321	3,165	27,228	49,714	298	167

特別展期間中の入館者数は、右表のとおりである。入館者総数は25,422人で、これは入館者総数の51.1%にあたる。また、1日平均は259人であった。

特別展銘	期 間	小中生	高大生	一般	計
川に生きる	4.26～6.19	3,103	754	6,506	10,363
美濃山地の自然	9.27～11.23	8,963	253	5,843	15,059
計		12,066	1,007	12,349	25,422

2 施設利用

今年度の講堂及び研修室の利用者は次のとおりであった。

〈講堂〉

6. 5. 13 図書館協議会総会

6. 4 岐阜県高等学校教育研究会地理部会

6. 9 岐阜県高等学校教育研究会社会科部会

〈研修室〉

6. 6. 6 文教警察委員会視察

6. 12 東海地理研究会

6. 14 関市商工会議所婦人会

6. 28 生物教育研究会

7. 8 美濃加茂美術連盟

11. 15 学校教育課長会

12. 11 関市視覚障害者福祉協会

7. 1. 12 山県郡教頭会

2. 17 美濃地区英語指導助手研修会

〔博物館関係団体〕

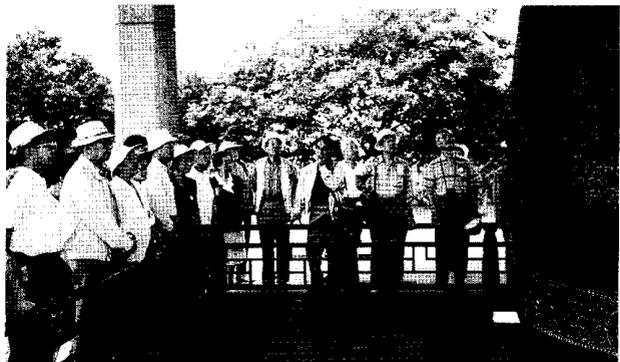
1 岐阜県博物館友の会

「博物館事業の普及を図るとともに、会員相互の教養を高め、親睦を図ること」をめざして発足した友の会は本年度設立12周年を迎えた。

一般会員535名、後援会32口という過去最大の会員数となり、友の会への期待を示す数字となった。会員の年齢構成は、50代以上の中・高齢者が大部分を占め、友の会に対して生涯学習の場や活動の場を求めているといえよう。こうした友の会への期待の中で、本年度も各種の事業を実施してきた。

主催事業のうち、探訪の旅は4回実施した。特に6月には、第2回の海外探訪の旅「韓国の文化と遺跡を訪ねて」を行った。現地では、国立博物館や古代の遺跡を見学し、日本の文化の源流ともいえる韓国の文化について学ぶとともに、韓国社会について研修を深めた。今後も海外への探訪の旅の実施について毎年実施してほしいと

の要望が強く、来年度も実施の方向で検討を進めた。また、日帰りで行った3回の探訪の旅は、奈良・平安時代の仏教をテーマにして関西方面の寺社や博物館を訪れ、体系的な研修ができる工夫をした。各回とも定員を大きく超える参加者があり盛況であった。参加した会員の中からは、より幅広く系統的な知識上になった研修を望む声が多くあり、来年度以降の課題として残った。



探訪の旅「韓国の文化と遺跡を訪ねて」より

第5回目を迎えた文化講演会は、作家の高田宏氏を講師に「海の文化・山の文化」と題して実施した。多くの参加者が熱心に聴講した。

会員の博物館でのボランティア活動の行事として定着した特別行事「七草がゆを食べよう」は、本年度も友の会会員の手で運営された。前日の七草の採集をかねた冬の植物の観察会から当日の運営まで会員が中心になってこの行事を実施した。友の会は今まで博物館事業に対して財政面等で支援活動を行ってきたが、これからの友の会と博物館との関わりを考えていく上で、こうしたボランティア活動が一つの方向になるといえよう。また、「今までは探訪の旅への参加がその中心で、博物館との関わりが希薄である」ことも友の会の活動の中で問題とれきたが、こうしたボランティア活動以外にも博物館の特別展や講座、催しものへの会員の積極的な参加を呼びかけていく必要性を感じるとともに、その受け皿となる企画を博物館側に求めていきたい。



ボランティアとして活躍した会員

友の会のもう一つの使命である博物館事業の普及については、例年と同様に特別展などの資料の作成を行うとともに、課題であった「岐阜県の仏像」など人気の高い図録を増刷した。また、県情報サロン、木曾三川公園などに図録を委託販売した。

以下、平成6年度の主な事業内容は次のとおりである。

〈会議〉

- 役員会・理事会 4月29日
- 友の会総会 4月29日
- 役員会 3月29日

〈研修事業〉

●探訪の旅

- ①韓国の文化と遺跡を訪ねて 6/6～6/10 40名
- ②京都文化博物館と東寺 9/11 143名
- ③近江坂本、滋賀院門跡 10/16 111名
- ④奈良(薬師寺、唐招提寺) 3/19 147名

- 文化講演会「海の文化・山の文化」 11/3 90名

〈友の会報発行〉

- 第39号～第42号 各500部 B5 6頁

〈資料等作成頒布〉

- 特別展図録 「川に生きる」 600部
- 「美濃山地の自然」 800部

●特別展図録増刷

- 「岐阜県の仏像」 1,500部
- 「輪中と治水」 1,000部
- 「白山の自然」 1,000部

●「岐阜県博物館総合案内」等の頒布

〈その他〉

●博物館との共催事業

●会員助成(入館料補助)

2 岐阜県博物館協会

岐阜県博物館協会は「会員相互の連絡提携のもとに、社会教育の健全な推進と文化の向上に寄与すること」を目的に、昭和41年に設立された。

公開講座(年4回)、機関紙(季刊)、会員研修会(年3回)等の諸活動をくり広げ、設立の目的に沿うように努力した。

平成7年3月現在、会員館園は127、個人会員は23名、名誉会長以下主な役員は次のとおり。

名誉会長一梶原拓、会長一浅野勇、副会長一青木允夫、土野守、横山勢津男、理事長一松本五三、事務局は岐阜県博物館内にある。

(主な事業)

- 6. 5. 13 第1回役員会及び通常総会
- 5. 29 第60回公開講座
- 6. 13 第28回会員研修会
- 6. 16～17 東海地区博物館連絡協議会総会
- 6. 30 機関紙「岐阜の博物館」 第106号発行
- 8. 18 第61回公開講座
- 9. 30 機関紙「岐阜の博物館」 第107号発行
- 10. 4～5 東海三県博物館協会交流研修会
- 10. 6～7 第29回会員研修会
- 10. 20 第62回公開講座
- 11. 10～11 第42回全国博物館大会
- 12. 20 第30回会員研修会
- 12. 30 機関紙「岐阜の博物館」 第108号発行
- 7. 2. 14 会員研修委員会
- 2. 17 第63回公開講座
- 2. 17 公開講座委員会
- 3. 1 機関紙委員会
- 3. 10 常任理事会
- 3. 31 機関紙「岐阜の博物館」 第109号発行

Ⅳ 利用案内

- 開館時間 4月1日▶10月31日 9時▶16時30分
 11月1日▶3月31日 9時30分▶16時30分
 (入館は16時まで)

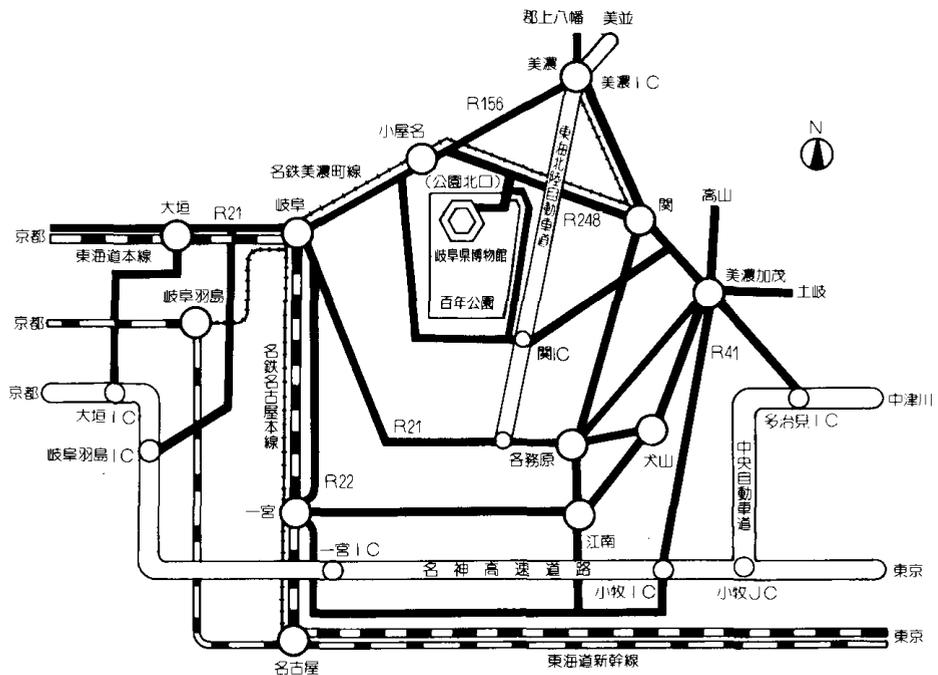
- 入館料 ()は特別展開催中の入館料

区分	個人	団体(20人以上)
一般	310円(600円)	260円(520円)
高校・大学生	100円(300円)	50円(200円)
小・中学生	無料(150円)	無料(100円)

※団体で利用していただく場合は、下見においでください。

解説資料・利用案内等をさしあげ、館内をご案内します。

- 休館日 月曜日(月曜日が祝日にあたる時は翌日)
 年末年始(12月27日▶翌年1月4日)
- 駐車場 博物館には駐車場がありませんので、百年公園の駐車場をご利用ください。
 駐車料金…普通(軽)自動車 300円、バス 800円
- 交通 名鉄美濃町線 小屋名駅下車 徒歩約15分
 岐阜バス 小屋名下車 徒歩約15分
 自家用車をご利用の場合は百年公園北口からお入りください。



〒501-32 岐阜県関市小屋名字小洞1989 ☎(0575)28-3111(代表) FAX(0575)28-3110

岐阜県博物館報 第18号 編集発行 岐阜県博物館
 平成7年(1995) 4月1日発行 印刷 協同印刷株式会社